

Designing beyond Design.

Create a Mindful Future, Together



Japan Industrial Design Association

JIDA ANNUAL REPORT 2023-24

2023年度 JIDA事業報告書

目次

1	ごあいさつ
2	JIDAとは
3	組織図
4	2023年度事業概要
5	WDA Tokyo 2023とDOOイベント
6－7	資格付与事業 － デザイン検定委員会
8－9	ミュージアム事業 － ミュージアム委員会
10－12	調査・研究事業 － 素材加工研究委員会 － 社会課題研究委員会 － プロフェッション委員会
13－14	交流事業 － 団体交流委員会
15	体験活動事業 － 学生支援委員会
16－17	セミナー他事業 － 研修・企業交流委員会
18－29	地域事業 － 地域事業概要 － 活動ブロック図 － 東日本ブロック － 中部ブロック － 北陸ブロック － 関西ブロック － 西日本ブロック
30－31	広報 － 広報委員会
31	内務 － 総務委員会 － 財務委員会
32－33	新入会員紹介

ごあいさつ

理事長 太刀川 英輔

Eisuke Tachikawa, President



JIDAは1952年に柳宗理・剣持勇・渡辺力ら25人の様々な領域のデザイナーによって創立された、日本のみならずアジアで最も長い歴史をもつデザインの業界団体であり、日本で唯一のインダストリアルデザインの全国組織でもあります。

2023年度は、JIDAにとって諸外国とのつながりやご縁を結び直し深める年であり、またこれまでの事業を新たな目で見つめ、進化させる年でもありました。

JIDAは1957年、世界40カ国が参加するWDO(The World Design Organization、旧ICSID)を創立した団体の一つです。2023年にはWDOの総会である「世界デザイン会議」を東京で34年ぶりに日本開催しました。

東京で行われた会議には、Humanity(人文科学)、Technology(科学技術)、Planet(地球環境)、Policy(デザイン政策)の4つのテーマが設定され、未来のデザインの可能性を探究する様々な議論が行われました。

本会議は当会の前理事長の田中一雄が実行委員長を勤め、また同会議において私こと太刀川英輔が、当団体と日本を代表してWDOの理事に選出されました。

JIDA理事長がWDO理事を兼務するのは榮久庵憲司氏以来、約五十年ぶりのこととなりました。伝説の榮久庵さんようにはいかないかもしれませんが、デザイン黎明期の日本のように、世界でデザインをリードできるように励みます。

またWDOでの活動がきっかけとなり、JIDAとWDOに所属する世界中のデザイン団体や活動は、これまでにない深いつながりで結ばれています。近年のJIDAには毎月のように各国のデザイン政策を担う皆様が訪れ、日々デザインの振興に対する注目の高まりを感じています。

JIDAが2010年に日本初のデザイン専門検定として開始した「プロダクトデザイン検定」を、より広いデザイン領域をターゲットとした「JIDAデザイン検定」にリニューアルすべく、2023年度はその準備を整え、2024年5月からの再スタートに備えました。もはやデザイナーだけがデザインをする時代ではありません。産業のリデザインは、デザイナーという専門性を超えた共創によって初めて達成できるもの。この検定が多くの一般の人たちにとって、デザインへの最初の一歩となるものに成長することを期待しています。

インダストリアルデザインは、長きにわたって産業のためのデザインを指しました。しかし肝心の産業が劇的に変化している不安定な現代です。これからのインダストリアルデザインは、気候や生態系の限界、デジタル化の劇的な変化を乗り越えて、産業をデザインし直すことを孕むでしょう。そして既に始まっている大転換の中核には、領域を超えた共有の哲学としてのデザインが宿っています。

JIDAはこれからますます、産業の変化を生み出すデザイン運動を触発して参ります。会員の皆様はもとより、これから産業をリデザインしたい皆様にもぜひJIDAの活動に加わっていただければ心強いです。JIDAを一つのハブとして新しいデザインのうねりを生み出していきましょう。

Designing beyond design.
デザインその先のデザインへ。

JIDA会員の皆様のお力をお借りしながら、本年もまたデザインの価値を社会に広く届けたいと思っています。是非ご支援のほどどうぞよろしくお願い致します。

Designing beyond design.

JIDAとは

日本で唯一のインダストリアルデザイン全国組織

Japan Industrial Design Association

公益社団法人日本インダストリアルデザイン協会（JIDA）は、プロフェッショナルなインダストリアルデザインに関する唯一の全国組織です。その前身は、1952年に創立された「日本インダストリアルデザイナー協会」であり、2021年に「日本インダストリアルデザイン協会」へと改変致しました。

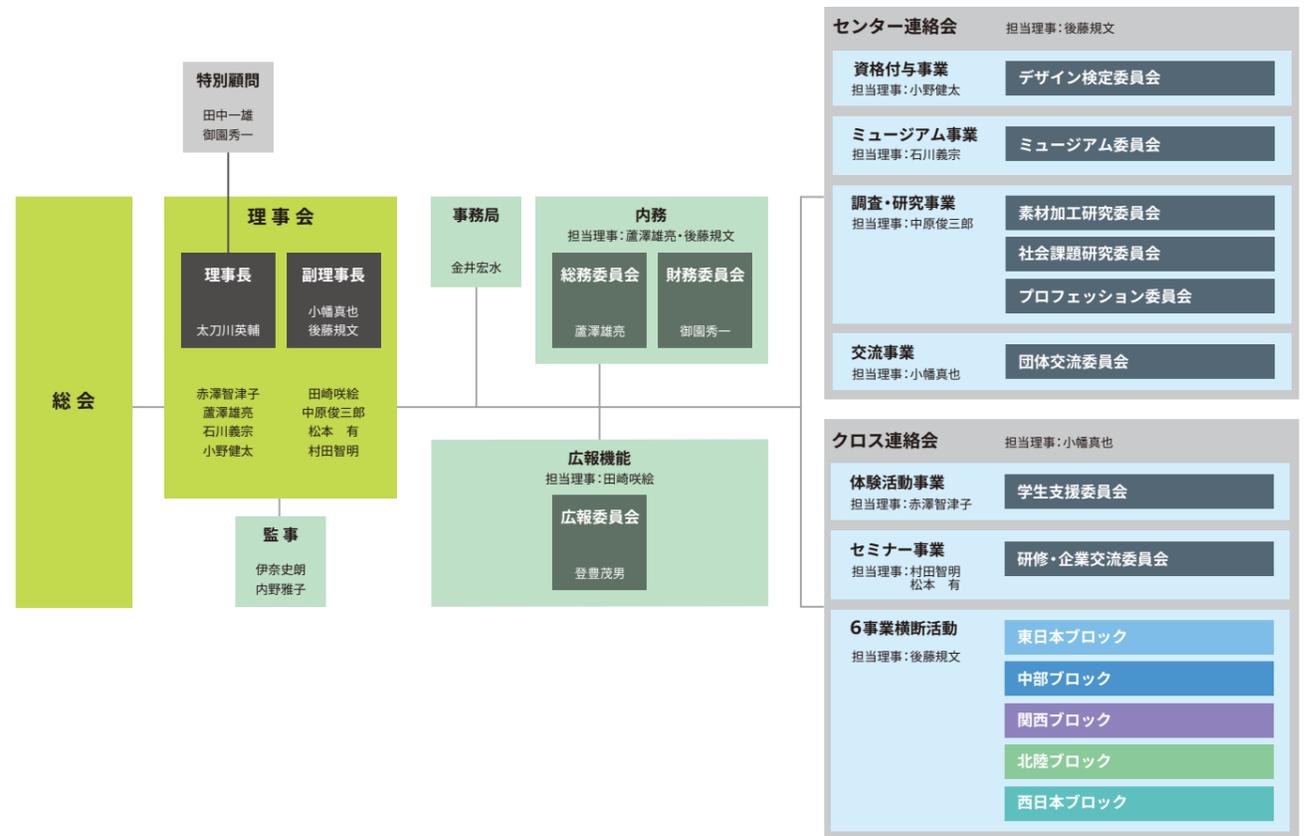
インダストリアルデザインは、量産を前提とした工業製品の「使いやすさと美しさ」の追求を目的とし、モノづくりに関わるデザイン領域として発展してきました。そして今日では、産業全般にわたる領域を対象とするだけでなく、その手法・意味・役割などを大きく広げています。もはやインダストリアルデザインは、従来の製品開発のみならず、人々の生活体験や価値の創造へと展開し、「社会・経済の持続的発展」と「生活文化の向上」を使命として活動しているのです。

JIDAの具体的な活動対象は、資格付与、セミナー、体験活動、ミュージアム、調査・研究、交流という公益6事業が中心となっています。また、これらの活動とともに、会員相互の情報共有や職能支援をおこない、プロフェッショナルな能力の向上に努めています。こうした活動は、相乗的にインダストリアルデザインを深化充実させ、変化を続ける社会に貢献するものとなっています。

JIDAの組織としては、全国横断的なセンター活動と、5つの地域ごとのブロック活動により構成されています。センター活動は公益6事業を中心に、国内外でのインダストリアルデザインの普及啓発をおこなっています。また、各ブロック活動ではセミナーやワークショップを通じて、インダストリアルデザインの価値向上と地域の活性化を進めています。

このようにJIDAは長い歴史と実績を背景として、常に社会と時代の変化に目を向け、インダストリアルデザインを通じた心豊かな未来への共創を目指して歩み続けています。

組織図



2023年度事業概要

2023年度は長かったコロナ禍がようやく明け、様々な事業が元の状態に戻った年となった。JIDAの事業も、オンラインの良さは継続しながらリアルを併用する新しい活動の在り方が定着してきた。前年度は70周年記念事業での盛り上がりを受けて、コロナ前の事業規模を3割も上回る活動実績となったが、23年度はコロナ前の例年規模をやや上回る結果となった。

交流事業の中では、世界デザイン機構（WDO）の世界デザイン会議（WDA）が23年10月に東京にて開催された。日本デザイン団体協議会をD8からDOOへとリブランディングし、7団体共催によるデザインサミットを幹事団体として主導した。

1. 資格付与事業

《国民から信頼される職能の確立》

インダストリアルデザイン関連の人材育成のため知識の一定化を目指し、知識レベルを第三者からも評価されるよう検定を実施し、資格を付与する事業を2010年から行なっている。検定事業と関連出版事業の相乗効果を基本に運営している。

本年度は、委員会組織の大幅な交代があったが、検定事業、出版事業ともに、滞りなく運営することができた。受験者数は、前年度179人に対し、2023年度は254人と大幅増加、問題集等の出版物販売数も増加となった。

2. セミナー他事業

《専門的知見の充実による社会貢献の推進》

セミナー他事業は、普及啓発と人材育成のために重要な事業と位置づけ、各委員会やブロックが企画・運営するセミナーを各地で行なう。23年度全体としては、年間各地で各種セミナーを約30本開催し、延べ1,000人ほどの参加者を動員できた。受託セミナーとしては、中国美的集団の若手デザイナーに対する日本からの著名デザイナーによるセミナーと、中部職業能力開発促進センターでの職業教育授業への講師派遣を行なった。

3. 体験活動事業

《次世代人材の育成による国家基盤の充実》

韓国インダストリアルデザイン協会（kaid）、台湾工業デザイン協会（CIDA）と共同で毎年開催する

国際学生デザインワークショップは、23年度は台湾CIDAが主催となり、台湾北部のKeelungにて開催された。これも恒例のNext EcoDesignワークショップは、2023年も様々なエコデザインに取り組んだ作品づくりを行ない、20年目となる展示を東京国際展示場「エコプロ2023」内で開催した。子どもワークショップは、東京ミッドタウンで3つのテーマで2日間開催した。

4. ミュージアム事業

《デザインを通じた日本文化の高度化》

25回目となるデザインミュージアムセレクションVol.25を実施した。219点の推薦品の中から審査委員による選定審査と特別審査委員によるゴールドセレクションの審査を行い、合計60点を選定した。例年通り、AXISギャラリーでの展覧会、選定証授与式、デザインフォーラム、図録発行を実施した。図録は2300部印刷し、国内外の関係団体、教育機関、図書館、美術館等に無料配布した。また、ウェブサイト「JIDAデザインミュージアム」をリニューアルし、セレクションのアーカイブとしての機能性を高めた。セレクションで選定された製品をストックヤードに収蔵、管理、展示するミュージアム活動では、2023年度は26点の寄贈を受けた。

5. 調査・研究及びその普及事業

《専門性の深化及び客観化》

調査・研究事業では、サンプル帳などデザインツールを普及させる事業と、専門情報を提供する事業、社会問題を解決する研究や知的財産に関する調査・研究事業などがある。

専門情報を提供する事業では、年間計5回の勉強会を開催し229人が参加した。サンプル事業では、複数商材の在庫切れに伴う増刷に労力と費用を多く費やした。社会課題研究事業では、さまざまな問題に取り組むプロジェクトを立ち上げて社会実装へと繋げた。知的財産に関する調査・研究事業では、日本弁理士会との共同研究会を5回開催した。

6. 内外関係機関との交流及び協力を行う事業

《社会貢献及びデザイン価値の拡充発展》

内外の関係団体との交流を通して、インダストリアルデザインをより一層深化させていく活動を行なっ

ている。

海外団体では、WDOが2023年10月に東京で開催したWDA Tokyo 2023の運営に参画し、多数の人的支援により成功に導いた。台湾で行なわれたADA（Asia Design Assembly）代表者会議に理事長以下3名が出席。CJIDC（中日工業設計中心）との連携事業も行なった。

国内においては、日本デザイン団体協議会（DOO）の年6回の定期会合に理事長以下数名の役員が毎回出席した。6月16日には初めてDOOの合同イベントを東京ミッドタウンで開催した。東京都4区の中小企業にデザイン支援を行なうTASK事業も継続。

7. 共益事業

主にフリーランスデザイナーを対象にした会員向け知財相談窓口「DPホットライン」を通年開設し、会員からの知財相談に対応している。毎年一度、外部向け年間活動報告書として「アニュアルレポート」を編集・印刷し、広く一般に配布している。公式サイトは引き続き改良を重ねており、2023年度はコンテンツの充実を図るため、特に基本情報の開示部分、ミュージアム事業、検定事業、調査研究事業などの事業内容が充実された。東日本ブロックでは、「東日本ブロックニュース」と称するメールマガジンを毎月会員に配信する活動を始めた。



WDA Tokyo 2023



2023年JIDA総会



DOO デザインサミット

WDA Tokyo 2023とDOOイベント

2023年度は、日本デザイン界では二つの大きなイベントが開催された年となった。

一つは、JIDAをはじめ7分野の日本を代表するデザイン団体で構成する日本デザイン団体協議会（DOO）が開催した、初めてのDOO合同イベントである。定時総会を同時に同場所で開催することで見込まれる多くの総会出席者を、その後のイベントで集約し、今まで一部の関係者同士でしか交流

の無かったDOOに所属する各団体の会員が交流できる場を設けることができた。これも、2年ずつ持ち回りで変わる幹事団体のローテーションが、ちょうどJIDAに回ったタイミングと太刀川理事長の推進力によって実現できたものである。もう一つはWDA Tokyo 2023である。JIDAも創立メンバーに名を連ねる世界デザイン機構（WDO）のWorld Design Assembly（WDA）/世界デザイ

ン会議が2023年10月に東京で開催された。27日～29日の3日間、千葉大学デザイン・リサーチ・インスティテュートと六本木ヒルズにあるアカデミーヒルズの2か所で開催された。実行委員長はJIDA前理事長の田中一雄氏、実行委員には太刀川理事長、企画委員や運営委員にもJIDAから数名が参加して成功に導くことができた。

資格付与事業



産業と暮らしに関わるデザイン知識の評価と認証システムの構築

デザイン検定委員会

2023年6月の総会后、担当理事、委員長が交替となり、また新たに委員が加わり、新体制でスタートした。これまでの多くの委員の方々のご尽力により整備された検定制度を引継ぎ、トラブル無く確実に運営していくことが本委員会の最も重要な活動であり、さらに多くの方にとって魅力的な検定となるよう改善に努めていきたい。また2023年度、2024年度初頭に、「プロダクトデザイン検定」から「JIDAデザイン検定」への名称変更という大きな刷新に取り組んだ。

■検定事業

2020年11月よりスタートした「プロダクトデザイン検定（略称：PD検定）」は、2024年3月まで、合計254人（1級84人、2級170人）の方に受験頂いた。

そして2022年度理事会において、日々拡大するデザイン領域により柔軟に対応するため、またより多くの方がデザインの知識を身につけ、それぞれの領域でデザインをより積極的に活用して欲しいという考えの下、名称を「プロダクトデザイン検定」から「JIDAデザイン検定」に改め、リニューアルを図ることが決定された。

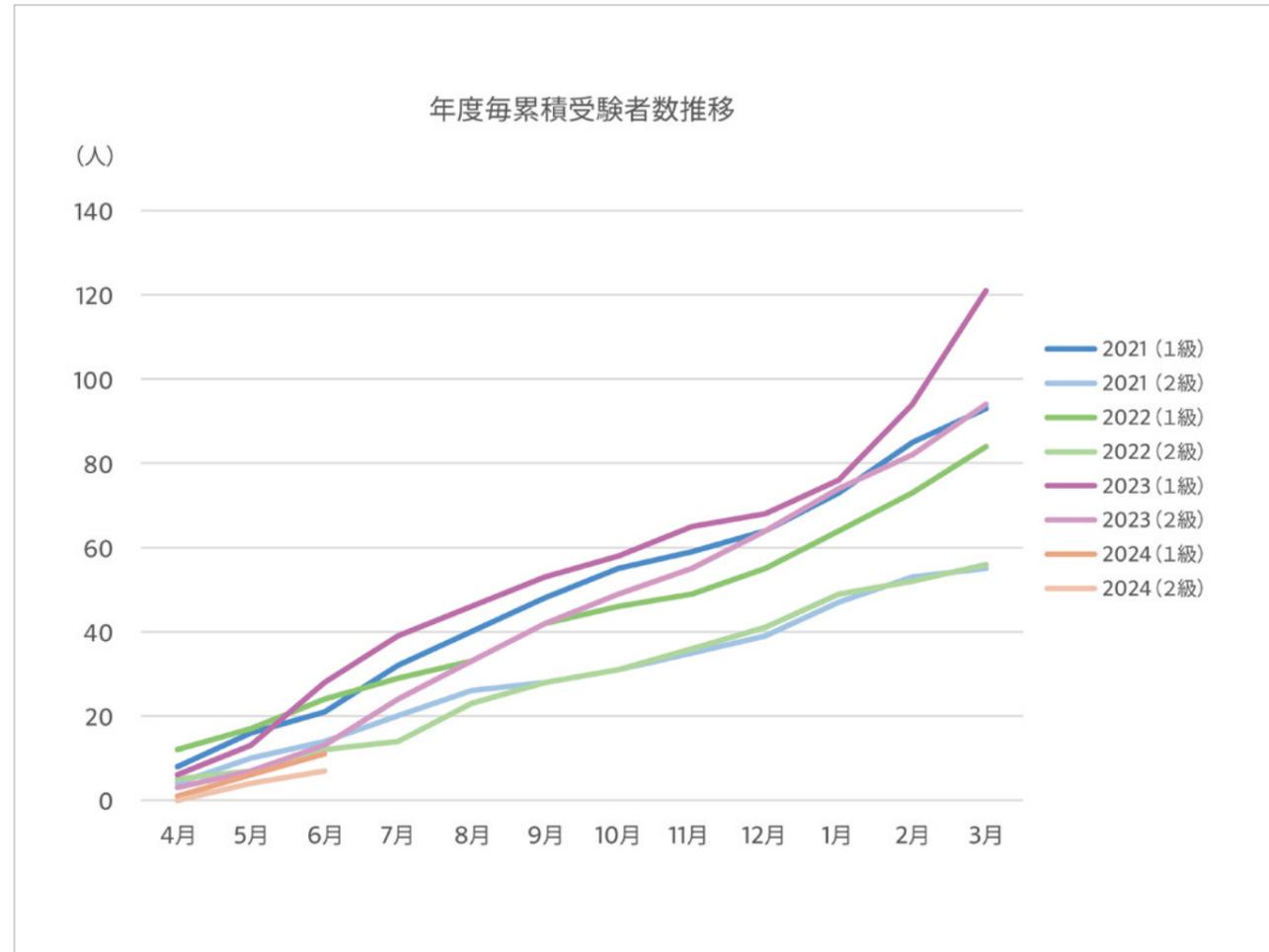
その決定に従い、デザイン検定のリニューアルに取り組んだ。まず問題について、プロダクトデザインを行う上で必要となる知識、プロダクトデザイナーとして知っておくべき周辺知識について整理を行い、検定問題の見直しを行った。

そして、これまで出題範囲をJIDA編纂の書籍としていたが、JIDA編纂の書籍からの出題を中心としながら、一部を書籍以外から出題することにし、拡大するデザイン領域により柔軟に対応できるよう、検定問題の更新作業に取り組んだ。3回の校閲作

業を行い、2024年4月に問題データの入れ替え作業を完了させ、5月の新検定スタートに向けて準備を整えた。

■事業運営と広報活動

問題の改訂作業と同時に、検定のリニューアルを多くの方に知ってもらうために、新検定サイトを新たに構築した。新サイト構築にあたり、新ロゴの作成、認定証のリデザイン、Q&Aページの作成など、様々な更新作業が発生したが、理事長をはじめ、事務局、広報委員の方々のご多大なるご協力を頂き、2024年3月に新サイトをオープンすることができた。今期は問題、サイトの更新作業に注力していたため、いまだ十分に検定のリニューアルについて告知できておらず、今後は広報活動に努め、より多くの方に検定を知って頂き、デザインの知を様々な領域で活用して頂けるよう取り組んでいきたい。



2021～2024年度毎累積受験者数推移



「プロダクトデザイン検定（略称：PD検定）」の申込みは、2024年3月31日をもって終了し、名称を新たに「JIDAデザイン検定」として、2024年5月15日より申し込みを開始しました。

JIDAデザイン検定とは About JIDA Design Certification

JIDAデザイン検定（旧：PD検定）は「プロダクトデザインを中心としたデザインに関する基礎知識習得の指標」として公益社団法人日本インダストリアルデザイン協会（JIDA）により運営されている検定です。昨今のデザイン領域の広がりを受け、2024年4月より「プロダクト」という言葉を外し「JIDAデザイン検定」として再スタートしました。今後は、広がるインダストリアルデザイン領域に対応すべく、徐々に試験範囲を拡大する予定です。

企画、経営、開発に関わるすべての人へ



魅惑ある商品づくりや様々なソリューションの創造のためには、デザインの知識は不可欠です。この検定により習得できる幅広い知識は、デザインに限らず様々な課題解決に役立ちます。

デザイナーをめざす人へ



キャリアアップ・ステップアップの目標値・指標として活用できます。就職活動に際してデザインの知識レベルの証明になります。

一般教養として



デザインに関する知識と感性を一般教養として身につけることにより、暮らしや仕事で出会う様々な事柄の理解を助け、新たなソリューションの創造に役立ちます。

デザイン教育に関わる人へ



デザイン教育の効果測定や単位認定に活用できます。多くの検定合格者を社会に送り出すことにより、教育機関としての信頼・評価の向上が期待できます。



JIDAデザイン検定WEBサイト

実施概要 Overview

1級と2級があり、2級がスタートセンターで、いつでも受験可能。2級から1級へは受験料を払って再受験可能。学校や検定で試験を実施する「出題・採点試験」として実施し、結果は合格通知書で送付される。

試験区分	JIDAデザイン検定1級	JIDAデザイン検定2級
受験資格	どなたでも受験可能	どなたでも受験可能
試験形式	筆記試験形式 100問 90分 ※2級はComputer Based Testing(機考)で、試験本場のPCモニター上で受験する試験です。	筆記試験形式 100問 90分 ※2級はComputer Based Testing(機考)で、試験本場のPCモニター上で受験する試験です。
目標とするレベル	プロダクトデザイン基礎知識を習得し、幅広い分野で活用できるレベルを目指す。	プロダクトデザイン基礎知識を習得し、幅広い分野で活用できるレベルを目指す。
出題範囲	JIDA編纂「プロダクトデザイン（改訂版）」に規定されている範囲。受験範囲は、プロダクトデザイナーとして知っておくべき周辺知識・情報	JIDA編纂「プロダクトデザインの基礎」と規定されている範囲。受験範囲は、プロダクトデザイナーとして知っておくべき周辺知識・情報
合格基準	正解した問題数の50%以上	正解した問題数の50%以上
受験料	試験料100円、受験料100円が別途必要です。 ※合格通知書1枚につき、100円が別途必要です。	試験料100円、受験料100円が別途必要です。 ※合格通知書1枚につき、100円が別途必要です。

試験会場について

- テストセンター試験
※試験料は別途必要です。受験料は別途必要です。
- 出題・採点試験
受験料が100円以上の場合は、学校や検定でインターネット接続可能なPCモニターが設置された試験場などで実施されます。
詳しくは「出題・採点試験の申し込み」をご覧ください。

注意事項

目、耳、身体などが不自由な方へ
本サイトで受験される方、他の不自由な方などで各種ケアが必要とされる場合はお申込み時にご連絡ください。なお、試験会場等の設備状況によっては対応できない場合があります。

資格登録について

合格後、資格登録することで「JIDAデザイン検定1級資格登録証」または「JIDAデザイン検定2級資格登録証」が発行されます（資格登録料は別途必要です）。資格の有効期限はありません。

参考テキスト Book of Reference

プロダクトデザイン【改訂版】
商品開発のための必須知識105
JIDAデザイン検定1級・2級
JIDAデザイン検定1級・2級
JIDAデザイン検定1級・2級

プロダクトデザインの基礎
スマートな生活を実現する71の知識
JIDAデザイン検定1級・2級
JIDAデザイン検定1級・2級

問題集 Drill Book
本問題集は認定証（PD検定）用の問題集として作成されたものです。2024年4月よりJIDAデザイン検定と名称変更したため名称は異なりますが、試験問題集と名称変更している問題集はどちらも併用して活用していただけます。JIDAデザイン検定では本問題集の題意からも活用いただけます。名称変更についてはお問い合わせください。

【PDF】PD検定1級【改訂版】準備問題集
プロダクトデザイン検定（2021年度改訂版）の出題範囲に合わせた準備問題集が用意されています。出題範囲は出題形式と「プロダクトデザイン【改訂版】」と一致しています。

ミュージアム事業

担当理事
石川 義宗



ミュージアム委員会委員長
蘆澤 雄亮



デザインを通じた日本文化の高度化

ミュージアム委員会

ミュージアム事業は我が国の優れたインダストリアルデザインを収集し、その普及や啓発を行うことを目的としている。23年度は主に下記の取り組みを実施した。

1) セレクションVol.25の実施

一般、会員から広く推薦を募り、候補219点の中から60点を認定した。これを公表するために展覧会を開催し、その中で各メーカーを招いた認定式を開催した。なお、展覧会の図録も刊行した。これは各メーカーから提供された画像や解説、審査員の意見を編集したもので、ウェブサイト「JIDAデザインミュージアム」でも公表されている。

2) 図録の刊行

頁数:164

図録制作:2,300部

セレクションVol.25に認定された全ての製品の画像、メーカーの解説、審査員のコメントなどを編集し、国内外の美術館、大学などに無償頒布した。

3) デザインミュージアムセレクション Vol.25 東京展の開催

期間:2024年1月19日(金)～24日(水)

場所:AXISギャラリー

展示数:60製品

来場者数:320名

「心豊かな未来の共創」をテーマに社会に寄与する優れたプロダクトを展示した。

4) 選定証授与式の開催

日時:2024年1月23日(火)14:00～18:00

場所:AXISギャラリー

参加者(企業関係者):約80名

認定理由のアナウンスとともに理事長が認定された企業関係者に認定証とトロフィー、記念品を贈呈した。また、セレクション委員長から本事業の意義や選考の過程に関する談話があった。その後、審査員と企業関係者との交流会が催された。

5) デザインミュージアム in AXIS

期間:2023年4月～2024年3月(6カ月毎に年2回)

場所:JIDAギャラリー (AXISビル4F)

2023年4月～2023年6月:「器 part 1」

展示品:メダルケース、ケトル、パルプストレージ

2023年6月～2024年3月:「器 part 2」

展示品:HASU、メタル丼、NUTS

デザインミュージアムセレクション(選定品)の常設展示を年間を通して実施した。昨年度のテーマは「器」をテーマとして展示を行なった。

6) デザインミュージアムセレクションVol.25巡回展

期間:2023年5月30日(火)～6月22日(木)

場所:長野市立信州新町美術館 市民ギャラリー

展示数:54製品

来場者数:635名

図録配布:50部(無償頒布)

「心豊かな未来の共創」をテーマに社会に寄与する優れたプロダクトを選定した。

7) デザインフォーラムの開催

日程:2023年6月10日(土)第1回13:30～、第2回15:00～、6月11日(日)第3回10:00～、第4回13:30～

場所:長野市立信州新町美術館 市民ギャラリー

ナビゲーター:蘆澤雄亮



Vol.25セレクション図録



JIDAミュージアム in AXIS



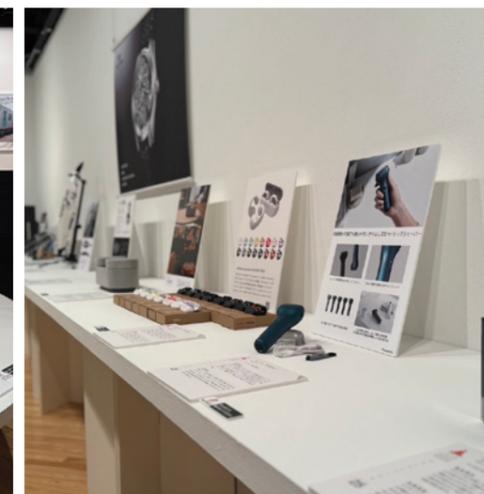
JIDAデザインミュージアムWEBサイト



Vol.25巡回展



Vol.25東京展



Vol.25認定授与式

調査・研究事業

専門性の深化及び客観化

素材加工研究委員会

インダストリアルデザインの現場で役立つ質の高い情報とツールの提供による社会貢献を目的として、2つの活動を中心に行った。1.デザインを行なう為のツールとして、樹脂や金属素材などの表面加工や塗装処理などのサンプル集「JIDA STANDARD SAMPLES」等の企画・開発および普及活動。2.素材や加工技術に関する勉強会や見学会を企画して、日本の優れたサプライヤーから技術情報やデザインツールなどを学ぶ勉強会を開催する事業。

「JIDA STANDARD SAMPLES」頒布実績は、全46冊と昨年度に比べ半分程度の実績に終わった。ただし2022年度は、新刊の木のサンプル帳『JIDA STANDARD SAMPLES 6 (WOOD)』の発刊があった為、頒布が伸びたと推測する。

KIDS DESIGN TOOLSは、頒布が伸びていない為、告知に力を入れる必要があると考える。

「STANDARD勉強会」では、第101回及び第102回勉強会を、ハイブリッドセミナー形式で開催した。特に第101回「塗料の機能最前線」は、耐傷編、機能編、意匠編、環境編の4回シリーズで開催した。計5回の勉強会を開催し、延べ229人の参加者があり好評だった。

■第101回勉強会「塗料の機能最前線」

発表者：武蔵塗料株式会社 金子友睦氏、五十嵐貴行氏

プロダクトを最終製品に仕上げるための表面処理の目的は、加飾のほか製品の表面保護や製品機能の補完など様々である。今回は表面処理の中でも塗料にポイントを絞って「塗料の機能最前線」として塗料の機能や性能などについての勉強会を全4回で開催した。

•101-1回「耐傷編」

開催日：2023年5月19日 場所：JIDAギャラリー / オンライン (ハイブリッドセミナー形式)

参加者：71人 (会場参加6人、オンライン参加65人)

•101-2回「機能編」

開催日：2023年6月2日 場所：JIDAギャラリー / オンライン (ハイブリッドセミナー形式)

参加者：49人 (会場参加3人、オンライン参加46人)

•101-3回「意匠編」

開催日：2023年7月7日 場所：JIDAギャラリー /

オンライン (ハイブリッドセミナー形式)

参加者：53人 (会場参加2人、オンライン参加51人)

•101-4回「環境編」

開催日：2023年7月21日 場所：JIDAギャラリー / オンライン (ハイブリッドセミナー形式)

参加者：42人 (会場参加2人、オンライン参加40人)

■第102回勉強会「めっきで何が解決できるか」

発表者：塚田理研工業株式会社 宮下哲幸氏、原勝明氏

開催日：2024年3月22日 場所：JIDAギャラリー / オンライン (ハイブリッドセミナー形式)

参加者：14人 (会場参加5人、オンライン参加9人)

常に進化し続けるめっきの技術は、プロダクトの進化とともに素材のパリエーションも多様化している。なかでも汎用的な素材であるプラスチックへのめっきのニーズが広がっている。今回は「めっきで何が解決できるか」をプラスチックめっきの視点から具体的な事例も交えて解説があった。



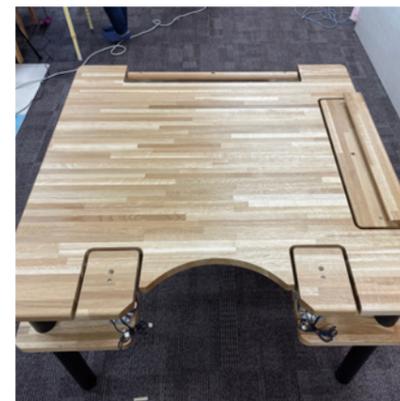
めっきで何が解決できるか



JIDA STANDARD SAMPLES



塗料の機能最前線



社会課題研究委員会

委員会では、国立研究開発法人 産業技術総合研究所や東京消防庁、NPO法人 Safe Kids Japanと共同で「傷害予防のためのデータ活用に関する検討委員会」を運営している。そこでは日常生活における子どもや高齢者の傷害情報を共有し、さまざまな問題に取り組むプロジェクトを立ち上げて社会実装へと繋げようとしている。これらの多岐にわたるデザイン研究活動を通して社会貢献の推進に取り組んでいる。



手に加わる、荷重を計測する実験台の試作機



保育施設の室内空間3Dモデル



■椅子からの立ち座り時、身体を保持する手に加わる荷重を計測する実験台の製作

これまで、立ったり座ったり、歩行する時などに寄りかけられる家具や空間のデザイン研究を行ってきたが、それらの科学的な実証実験を行うための計測装置が必要になった。そこで、委員会のメンバーが実証実験の調査や計測装置の設計を行い、テーブルやイスの肘掛を想定した各種手がかりを台座に設置し、それら取手にかかる荷重を三次元で計測するセンサーを取り付けたテーブルの実験装置を製作した。

■傷害予防教育のための保育施設3Dモデルのデータ制作

国立研究開発法人 産業技術総合研究所 人工知能研究センターでは「人と共に進化する次世代人工知能に関する技術開発事業」において、安全な環境インタラクションを支援する技術を開発している。その環境インタラクションのベースとなる3Dモデルとして、これまで、集合住宅・戸建て住宅・日本の家屋のデータを制作してきた。それらの実績を踏まえ、保育環境としての教室、園庭、玄関、廊下、階段からなる2階建て保育施設を想定した3Dモデルデータを作成した。

■新巧技台デザイン開発業務 (PHASE-1)

子どもが屋内で使用する遊具「巧技台」を対象に、安全基準を満たし楽しく遊ぶことを目標にしたデザイン開発を行った。デザイン提案においては、安全性および、新機能に関わる技術が開発のテーマとなり、使い勝手を含めたバランスの良い試作品が完成した。このオオニシ体育(株)の受託事業は、今後も商品化を目指し継続して行われる予定で、これまでの子どもの傷害事故予防の研究成果を総括する良い機会と捉えている。

開発対象の巧技台 (資料提供:オオニシ体育株式会社)

担当理事・社会課題研究委員会委員長
中原 俊三郎



素材加工研究委員会委員長
中島 修



調査・研究事業

プロフェッション委員会

インダストリアルデザインが広く日本の産業社会で活用出来る為、定期的に委員会を開催し、また日本弁理士会意匠部会と連携した共同研究会、DOO（デザイン団体協議会）デザイン保護研究会との共同研究などを行った。また委員会内に医・工・デザイン連携研究部会が新たに設立されMEDTECへの出展や設立記念イベントなども行われた。

■日本弁理士会意匠部会との共同研究会

5月10日年間計画会議（オンライン）
6月30日 オンラインセミナー
「意匠法、商標法、不競法に関する改正法案が可決・成立内容について」
JPAA 側 弁理士 羽鳥慎也氏
「機器デザインの現場」
JIDA 側（有）デザインスタジオ・トライフォーム 代表 浅香秋也氏
9月22日（弁理士会館）
デザイナー及び弁理士双方の仕事内容確認と弁理士からデザイナーに向けての質疑応答(1)
12月22日（弁理士会館）
弁理士からデザイナーに向けての質疑応答(2)
及び交流会（JIDA 会員、弁理士、特許庁意匠課長、裁判所判事などが参加）
3月27日関西ブロック知財イベントに本研究会員もオンライン参加

■DOO デザイン保護研究会

下記日程にて開催されたデザイン保護研究会に委

員が参加
7月18日、8月23日、10月18日、12月20日、2月21日
各団体別による、著作権や産業財産権など特色別の知的財産権周辺の動向、契約、問題などの情報交換が行われた。

■展示会

第8回パッケージデザインパビリオン in TOKYO PACK（2024 月年10月23日～25日開催予定）に向けて企画計画を実施し参加者募集を開始した（締め切り2024 年5月31日）。JPDA、JAGDA会員等も参加予定、日本弁理士会無料相談ブースもパビリオン内に設置。

■連携、委託

- 茨城県行方市プロジェクト 東日本ブロックと連携したイベント運営を協力実施した。
なめがた秋祭りJIDA展示出展協力など
- 東京都中小企業振興公社発行の「デザイン活用ガイド・令和6年版」改訂作業を受託、実施した。

■契約書関連

プロフェッション委員会webサイトに公開中の契約書について、フォーム形式にて入力すると自動的に契約書を生成するシステムの雛形を作成した。

■新部会「医・工・デザイン連携研究部会」設立

これまで、Medtec Japanに出展してきたメンバーを中心に、医療系デザイン関連の共同研究や勉強会、展示会への出展を目的とした「医・工・デザイン

プロフェッション委員会委員長
吉田 晃永



連携研究部会」が新たに委員会内に設立され、より医療に特化した部会として活動を行っている。

1. Medtec Japan 2023

日程：2023年4月17～4月19日
場所：東京国際展示場
参加者：13社（会員11社、会員パートナー2社）
Medtec Japanには2021年から3年連続でJIDAブースを出展。JIDAと医療関係の様々な企業、医療関係者などとの関係構築に寄与している。

2. 医・工・デザイン連携研究部会設立記念セミナー

日程：2024年2月22日
場所：株式会社セントラルユニ
参加者：27名（会員21名、一般6名）
A.「株式会社セントラルユニ業務紹介と院内フィールドワークについて/mashup studio 見学」
セントラルユニ事業開発部 村田和之氏
B.「医療機器のユーザビリティの課題」
臨床工学技士 小川和彦氏
C.「医療機器向けデザインへのHCDプロセスの導入支援」
株式会社ぶらす U. 代表取締役 血谷知之氏
部会設立を記念した最初の事業となった。参加者も想定より多く、医療関係のデザインへの注目の高さがうかがわれた。事業終了後は懇親会も開催し、会員・医療関係者との親睦を深めた。



Medtec Japan 2023



プロフェッション委員会（ハイブリッド）

センター連絡会

交流事業

国内・国際連携を通して日本のデザイン価値向上に寄与する活動を推進

団体交流委員会

コロナ禍の影響も収まり、海外でのセミナー等も従来の形式での開催が再開されるものの、パンデミックの間に行われたオンラインや録画による新しい方式も選択肢として定着。社会全体がより幅広い交流の手段を獲得したとも言える。そうした中で、日本のデザインやデザイナーに対するリスペクトを背景にした海外デザイン団体や企業からの要請は引き続きネットワーク拡大へ繋がっており、日本のデザイナーの海外進出に向けた支援は協会の重要なミッションのひとつであり今後の課題でもある。

■WDA/World Design Assembly 2023

WDO世界デザイン機構との連携では、2023年10月27～29日に東京で開催されたWDA2023の運営に参画した。イベント全体の実行計画を推進するための企画、運営、広報部会に対して協会からの人的支援を多数展開し成功に導いた。主題の「Design Beyond」と4つのテーマ「Humanity」「Planet」「Technology」「Policy」を掲げる展覧会や、プレイベントに「Design Beyond - あたらしい世界のためのデザイン -」「1973/1989 ICSID 会議と Design Year が残したもの」に参画。10月29日に開催されたWDO総会では理事選挙が行われ、太刀川理事長が当選を果たした。

■日本デザイン団体協議会（DOO）

日本デザイン団体協議会のメンバーとして定期会合に参加し、広がるデザインの要請に応える活動として、クラフトやファッションに関わる活動とつながる計画や、デザインミュージアムの設立に向けた活動、デザイン保護に関する活動を（一財）日本特許情報機構とともにするなど関連組織との連携活動を行っている。6月には初めてのDOOでの合同イベント開催し7団体それぞれが行なうアワード事業の紹介からデザインの傾向を探るテーマで行なわれた。さらに同時期に開催中のWDA展示を見ながらWDO関係者との合同懇親会もあり連携を高めた。
DOO合同イベント：6月16日 東京ミッドタウン 参加7団体中5団体の総会とDOOトークイベント
参加者：約250名
定期会合：隔月6回開催

担当理事
小幡 真也



団体交流委員会委員長
井上 雅弘



■Asia Design Assembly(ADA)

代表者会議とISDWチューター会議
代表者会議：2023年3月13日、8月25日
チューター会議：2023年4月28日、6月27日、7月21日
3カ国のデザイン団体、日本(JIDA)、韓国(kaid)、台湾(CIDA)でADAを構成しており、各代表によるオンライン会議に参画し、主要行事である国際デザイン学生ワークショップ（ISDW2023）の台湾開催をサポート。3年ぶりの対面開催となったイベント（8/20～8/26）の完遂に向け、今回の主催団体であるCIDAをサポートしながら3カ国5名のチューターを含めたオンラインミーティングへも参加。台湾基隆市で行なわれたADA代表者会議には太刀川理事長と小幡副理事長、御園特別顧問、井上委員長が出席。

■中国美的へのデザインセミナー企画・実施

（2023年8月～2024年7月）
第1回セミナー：2023年12月26日（月） 14：00～17：30
テーマ：「Design and Branding」
登壇者：長屋明浩氏（ヤンマーホールディングス取締役ブランド担当）
受講者：75名（うちオンライン参加者：35名）
第2回セミナー：2024年3月7日（木） 14：00～17：30
テーマ：「ソニーの“未来”をデザインする」
登壇者：石井大輔氏（ソニーグループ株式会社クリエイティブセンター センター長）
受講者：90名（うちオンライン参加者：30名）
中国広州の美的集団に向けたデザインセミナーの企画・実施。3年ぶりに対面で開催。4人のデザイン



DOO デザインサミット



長屋 明浩氏（右）



石井 大輔氏（中左）

交流事業

関係者に登壇いただき、日本のデザインをアピールするとともに、受講者がこれからの仕事に活かしていくための質の高い学びの機会を提供した。23年12月から24年7月にかけて全4回開催予定となるセミナーの第1、2回目。

■CJIDC (中日工業設計中心) との連携事業

中国蘇州市政府の委託を受けた中日工業設計中心からの依頼により、中国での日本デザインのアピール・各種情報の共有・プロモーション協力・デザイン教育連携等を通じて関係構築の可能性を検討。日中合同でのデザインコンテストの支援と蘇州における日本デザイン展示会に向けた準備を推進中。2023年11月16～19日には太刀川理事長が中国蘇州青苔工業設計プロジェクトの現地を視察、CJIDCを訪問。現地イベントのラウンドテーブルで講演を行った。



中国蘇州「青苔国際工業設計村」構想



CJIDC会議風景

体験活動事業

担当理事
赤澤 智津子



学生支援委員会委員長
黄 ロビン



次世代人材の育成による国家基盤の充実

学生支援委員会

■ISDW
(International Student Design Workshop)

開催日: 8月20日(日)～26日(土)

場所: 台湾基隆市

参加者: 日本、韓国、台湾からの参加学生65名と
チューター5名

太刀川理事長、小幡副理事長、御園特別顧問、井

上団体交流委員長、折田事務局員

テーマ: 「reFREEDOM」

国際学生デザインワークショップ (ISDW) は、CIDA 主導のもと、3年ぶりに対面形式で、8月20日(日)から26日(土)の日程で台湾北部の基隆市で開催された。日本、韓国、台湾からの参加学生65名と各国から派遣されたチューター5名は10のグループに分かれ、COVID-19以降の生活と社会の変化への課題テーマを「reFREEDOM」とし、主にGreen

TransportとAll-age-friendly cityについて発案し、台湾基隆市長へプレゼンテーションを実施した。沿岸の汚染への対策と高齢者の交流を促す優秀提案に対しては、市長より実現に向けて取り組む宣言を頂戴した。現地調査による体験や参加者の対面議論によって、本ワークショップの本来目的の一つでもある国際間の化学反応がより強まり、大いに刺激を受けた意義のあるイベントとなった。



ISDW制作の様子



優秀作品を提案したチームと台湾基隆市長



ISDW基隆市調査

セミナー他事業



担当理事
村田 智明

担当理事
松本 有

セミナー委員会委員長
小幡 真也

デザインの普及啓発と人材育成をめざした新しい知見と基礎的セミナーの実施

研究・企業交流委員会

セミナー部会

■デザインに活用できるAIセミナー

<1回目>

日時:2023年11月18日(土)

場所:AWS (Amazon Web Service, Inc.) 東京/目黒

参加者数:29名

<2回目>

日時:2023年12月2日(土)

場所:京都市立芸術大学

参加者数:31名

協力:株式会社リートンテクノロジーズジャパン

これからのインダストリアルデザインに必須のAIを活用するため、「プロンプト」の使い方を競う「プロ

ンプトソンの体験と開発」ワークショップを開催。プロンプトの作成はAIを有効に使う人の必要な技術と位置づけた主旨により、参加者から様々な利用提案が出された。

■デザイン事業所の経営課題を考えるセッション

主催:セミナー部会

日時:2024年2月14日

場所:株式会社バッファロー (パンフィックセンタープレイス丸の内)

参加者:22名

協力:株式会社バッファロー

企業とデザイナー / 行政とデザイナーで進めるデザイン活動において、適切なプロセスを構築するためのワークショップを開催。経済産業省、デジタル庁などの行政関係者の観点も加わった良さがあり、2024年度も継続したセミナー開催を行う。

■JIDAデザインスクール構想

主催:セミナー部会

日時:2023年11月25日第5回理事会にて提案、以降2024年4月まで4回開催

場所:オンライン

参加者:24名

過去の膨大なコンテンツと新規コンテンツにより、スクール活動を行う。プロデザイナーと関わる経営者、学生やデザインビギナーなどの閲覧者のレベルに応じたコンテンツを用意することによって、JIDAの間口を大きく開放し、またセミナー活動の効率・安定をも図れると考えた結果「デザインスクール」構想に至る。2024年度はデザイン検定2級のための全12回オンライン配信を予定。

インハウス部会

■DXDキャンプに学ぶ新時代のデザイナー

日時:2023年10月10日(火)

場所:KOKUYOホール+オンライン

登壇者:セイコーエプソン株式会社経営戦略推進室 赤羽絵美氏、富士通株式会社 デザインセンター 福元涼介氏、日本電気株式会社 コーポレートデザイン部 白川桜子氏

協力:トリニティ株式会社 DXDキャンプ事務局

参加者:47名

多様な人材がデザインに関わる中、境界を超えた働き方が作用した、先端の企業活動とデザイン経営の事例を紹介。

■Design beyond Mobility

日時:2023年10月30日(月) (交流会含む)

場所:AXISギャラリー

登壇者:ダッソーシステムズ アン・アセンシオ氏、イタルデザイン ホアキン・ガルシア氏、山本卓実氏

参加者:70名

世界デザイン会議に合わせた時期に、世界のカーデザイン情報を発信。

■手描きスケッチワークショップ2023

日時:2023年12月11日(月) (交流会含む)

場所:AXISギャラリー

講師:伊藤邦久氏

参加者:50名

軽量飛行機、自動車部品を事例にドローイング技術を紹介。参加者が描くスケッチに講師が指導を加えて、その変化を体験した。

■JIDA女性インハウスデザイナー研究会 36期活動報告会

日時:2024年3月11日(月) 最終報告会

場所:富士フィルムビジネスイノベーション株式会社みなとみらい事業所ホール

参加者:36名

「One Table Diversity」をテーマとし、一つのテーブルで共に仕事をするくらいの、身近な範囲の多様性について活動を実施。



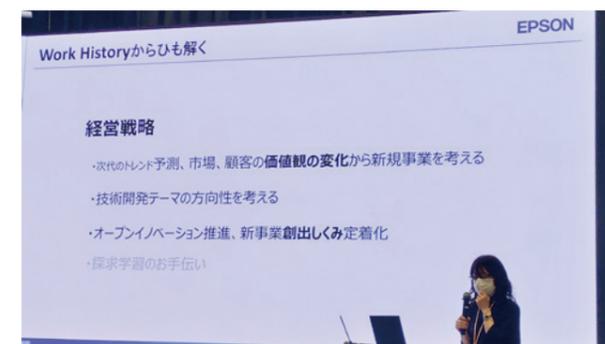
デザインに活用できるAIセミナー



Design beyond Mobility



デザイン事業所の経営課題を考えるセッション



DXDキャンプに学ぶ新時代のデザイナー



手描きスケッチワークショップ2023



担当理事
後藤 規文

地域事業

ブロック間の情報共有と連携の強化による地域事業の活性化

地域事業はブロック間の連携を強化し、各ブロックの活動を下支えする目的で2023年度に再編成された。

■オンラインによるブロック長会議

オンラインによるブロック長会議を2ヶ月に1度のペースで開催し、各ブロックからの活動報告を中心に情報共有を行った。会議ではブロックで抱える問題についても意見交換を行ったが、東日本ブロック以外の地方ブロックで見られる会員の高齢化と会員数の減少は深刻で、イベントの集客やブロック運営に支障をきたしている。コロナが一段落したにも関わらず、事業規模が思うように伸びない点はそれらが要因と考えており、地方ブロックの構造的な問題が露呈した年度であった。

■3ブロック合同イベントの開催

その地方ブロックを盛り上げるための企画として、中部・北陸・関西ブロック合同のイベントを行った。中部ブロックが企画を担当、北陸ブロックは当日の進行役、関西ブロックは会場運営とオンライン配信を担当した。会場は会社設立50周年を迎え、社

を大幅にリノベーションした株式会社GK京都の3階交流スペースを提供していただいた。集客は今ひとつであったが、ブロック間の会員交流は久しぶりであり、全国組織であるJIDAのメリットを実感したイベントとなった。

「日本を変える！地方発のデザイン活用術」

開催日：2023年11月10日（金）

場所：株式会社GK京都 3階交流スペース

参加者：正会員14名、一般14名、学生3名

登壇者：株式会社ナカムラ 代表取締役 中村貴男氏（愛知県名古屋市の駄菓子問屋の二代目）、株式会社フジタ 代表取締役 梶川貴子氏（富山県高岡市の金型製造業の二代目）、株式会社電子技販 代表取締役 北山寛樹氏（大阪府吹田市の電子基板製造業の二代目）

モデレーター：稲垣揚平（JIDA北陸ブロック）

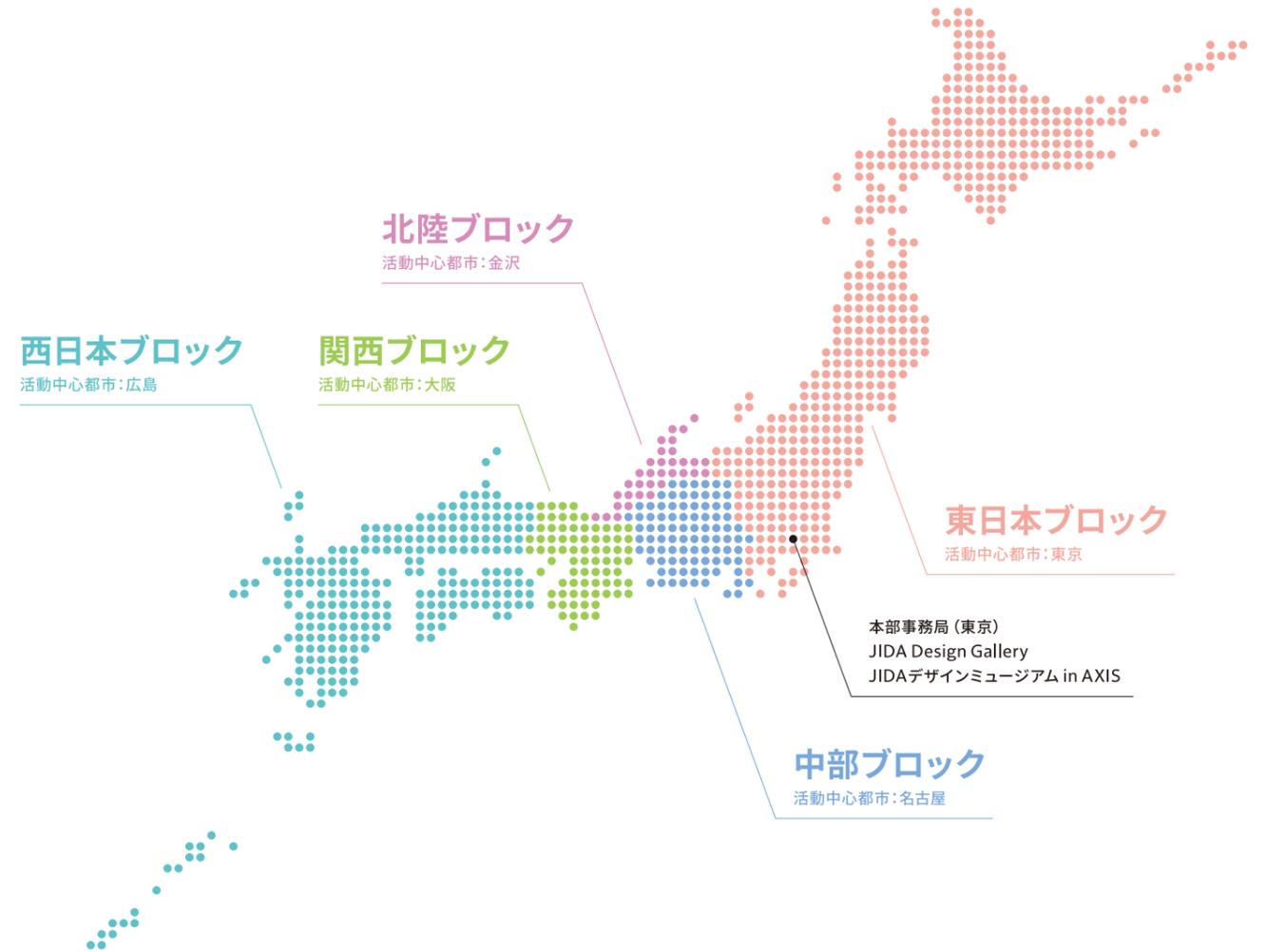
地方企業の再生にデザインを導入し、成果を上げた3名の経営者から、地域を支える経営者やデザイナーに何が出来るのか、その可能性を探った。

登壇者はそれぞれ親族が経営する中小企業を引き

継いだ2代目で、事業が行き詰まった状況下、デザインを強化するという視点で自社の独自性と強みを引き出し、どのように現状を打破してきたのか。3名の登壇者からその真意と教訓を伺い、地方の持続可能な発展に向けて、地域を支える経営者やデザイナーに何が出来るのか、全国に5ブロックを抱えるJIDAならではの視点でその可能性を探った。

地方ブロックが合同で行うイベントは稀で、このイベントはテストケースとなった。異なるブロックの会員とは、なかなか顔を合わせた交流ができないため、今回のような合同イベントは改めて「全国組織のJIDA」を実感する良い機会であり、地方ブロックの企画を盛り上げる効果が確認できた。しかし反面、旅費交通費などが嵩み、運営上のリスクが高くなるため、集客効果を考慮した企画内容や会場設定、理事会や広報委員会などのセンターとの連携が必須であり、十分な準備期間を設けて、今後も継続していきたい企画である。なお、令和6年能登半島地震の影響で予定していた独自事業が執行されなかったが、北陸ブロックには上記の合同イベントに多大なるご協力を頂いた点を補足する。

活動ブロック図



3ブロック合同イベント「日本を変える！地方発のデザイン活用術」

デザイン経営で起死回生した経営者と語る
日本を変える！地方発のデザイン活用術

◆開催：2023 11/10 15:00~17:00 ◆会場：GK Kyoto



水野ブロック長（中部B）、藤田ブロック長（北陸B）、川畑ブロック長（関西B）

全国	正会員（個人）	483人	東日本	正会員（個人）	302人	関西	正会員（個人）	93人
	正会員（団体）	20団体		正会員（団体）	13団体		正会員（団体）	3団体
	賛助会員（個人）	22人		賛助会員（個人）	15人		賛助会員（個人）	2人
	賛助会員（団体）	69団体		賛助会員（団体）	47団体		賛助会員（団体）	5団体
	学生会員	9人		学生会員	5人		学生会員	4人
			中部	正会員（個人）	48人	西日本	正会員（個人）	22人
				正会員（団体）	3団体		賛助会員（個人）	1人
				賛助会員（団体）	15団体		賛助会員（団体）	2団体
			北陸	正会員（個人）	15人	海外	正会員（個人）	3人
				正会員（団体）	1団体		賛助会員（個人）	1人
				賛助会員（個人）	3人			



東日本ブロックブロック長
高橋翼

東日本ブロック

2020年から影響を及ぼした新型コロナウイルス。ようやくその長い呪縛を完全に解き放ったと感じることが出来た1年となった。これまで開催することが出来なかった4年振りの賀詞交歓会、東日本ブロックなど会員が望んでいた直接会話を交えてのリアルな交流、プロジェクト、イベントをより力を増し、実行することができた。東日本ブロックを支える運営委員も新しいメンバーが加わり、これまでの活動に対して広報、イベントなどの意味・意義を問いつつ活発な意見交換の機会を持つことが出来、組織として一歩先に進んだと実感することが出来る1年となった。

■東日本ブロック BLOC DAY

担当:東日本ブロック運営委員

開催日:2023年6月3日(土)

場所:AXIS ギャラリー

参加者数:41名

会員のJIDAの入会理由で最も多いものが「他の会員との交流」。この理由にしっかりと向き合うべく「交流」をメインの目的としたイベント。過去3年間の新入会員の自己紹介プレゼンやセンターの委員会の紹介、東日本ブロックに所属する各研究会の紹介、そして会員同士が自由に話せる交流会を行った。久々の交流の場には新たな顔、懐かしい顔が集まり有意義な交流の場となった。



東日本ブロック BLOC DAY

エコデザイン研究会

担当:本田圭吾

東日本ブロックエコデザイン研究会は今年2023年12月、20回目のとなる「Next Eco Design 2023」展を開催した。Next Eco Design 2023展は<次世代のエコデザイン>をとおして、デザインを学ぶ学生とプロのデザイナー(会員)が協働した作品を紹介するもの。33名の学生とともにワークショップを通し、暮らしを見直し環境に配慮する「未来をつくるデザイン」として様々なエコデザインに取り組んだ。自然エネルギー・社会システム・インテリアプロダクト・家電・輸送機器等様々なエコデザインのコンセプトをその成果として、デザイナー作品とともに「サステナブルデザインの未来シナリオパネル」や「エコデザインの提案モデル」として展示した。今後も暮らしをゼロから見直し環境に配慮する「未来をつくるデザイン」を目指し、地球の環境収納力に見合った「人と自然が共生する持続可能な暮らし、生き方」を念頭に、さまざまな未来志向のデザイン提案に取り組んでいく。

■サステナブルデザイン&エコデザイン基本セミナー

「サステナブルな社会を作る未来デザインシナリオ」

開催日:2023年7月16日(日)

時間:13:00~17:00

場所:株式会社Too本社・虎ノ門

参加学生、指導する正会員のプロデザイナーが集まり、顔合わせ、キックオフミーティングを行った。



サステナブルデザイン&エコデザイン基本セミナー

■エコデザインサマワークショップ

開催日:2023年8月22日(火)、23日(水)、24日(木)

時間:10:00~17:00

場所:株式会社Too本社・虎ノ門

三日間集中のワークショップ。テーマに基づいたグループリサーチ作業とサブテーマに基づいた各々のデザイン(シナリオ)提案制作を進め、アドバイス指導のデザイナーとともに、各々のデザイン(シナリオ)提案制作を行った。期間中はエコデザイン研究会のOBでもあり、ミラノサローネで話題を集めた「HONOKA」のメンバーによる特別講演会なども開催。学生は各自、案を固め中間プレゼンの準備に向けてアイデアの修正を行った。

■提案制作進捗レビュー(中間プレゼンテーション)

開催日:2023年9月24日(日)

時間:13:00~17:00

場所:インターナショナル・デザイン・リエゾンセンター((公財)日本デザイン振興会・六本木)サブテーマに基づいたグループリサーチとグループ間の情報共有を行いつつ、サブテーマに基づいた各々のデザイン提案制作を進めた。

■ワークショップ最終プレゼンテーション

開催日:2023年11月12日(日)

時間:13:00~17:00

場所:インターナショナル・デザイン・リエゾンセンター((公財)日本デザイン振興会・六本木)作品と展示形態の最終提案の発表、出展者の顔合わせを行った。

■Next Eco Design 2023

主催:(公社)日本インダストリアルデザイン協会

東日本ブロックエコデザイン研究会

協力:(公財)日本デザイン振興会、株式会社Too

協賛:長島梱包株式会社、株式会社Too、株式会社

ユポ・コーポレーション、株式会社サン・ブレン

後援:(公社)日本インテリアデザイナー協会、(公社)

日本グラフィックデザイナー協会、(公社)日本

サインデザイン協会、(公社)日本ジュエリーデザイ

ナー協会、(公社)日本パッケージデザイン協会、(公社)

日本建築家協会、(一社)日本空間デザイン

協会

開催日:2023年12月6日(水)~12月8日(金)

場所:東京国際展示場 SDGs Week EXPO 2023

[エコプロ2023]

【展示内容】

・JIDAエコデザイン研究会とエコデザイン 活動



ワークショップ最終プレゼンテーション



Next Eco Design 2023

の歩み [パネル・アーカイブ展示]

・未来をつくるエコデザイン しくみ・サービスの提案

・記憶を託すエコデザイン リユース・リサイクルプ

ロダクトデザインの提案

【出展者】

・プロ出展者:JIDAエコデザイン研究会メンバー 11

名(浅井治彦、石渡文一、神田剛、佐藤徹、長谷川

真之、福田一郎、本田圭吾、中島修、山崎和彦、白

井晃平、田崎咲絵)

・学生:主にインダストリアルデザインを学ぶ関東地

区の学生を中心に32名(荒井彩亜、石田天花、市

川航、内田実咲、浦田朱理、大泉 菜央、大木 珠実、

加藤 稚、カモンジョ、菊地 剛、北爪 志耶、許可欣、

黄宇瀟、酒井 優理子、清水 彪太郎、ジンケイショ

ウ、高田 安那、高橋 陽太、陳 奕、陳 燦、土田 裕喜、

土屋 瑛菜希、中嶋 凜、中田 琴葉、中村 茉優、中村

隆馬、長谷川 太一、付 弘揚、メンデス バルガス バ

ウリナ、安野 愛美、LIAO HAO TING、渡邊 レー

ファ)

・参加校:共立女子大学、専門学校桑沢デザイン研

究所、千葉工業大学、前橋工科大学、前橋工科大

学大学院、拓殖大学、東京工科大学、東京造形大

学、東洋美術学校、日本大学芸術学部、文化服装

学院、明星大学

参加学生から以下の学生の取り組みを評価し表彰

した。

最優秀賞1名:許可欣(日本大学芸術学部大学院)

優秀賞2名:大木 珠実(専門学校桑沢デザイン研

究所)、北爪 志耶(拓殖大学)

奨励賞7名:カモンジョ(日本大学芸術学部大学

院)、高田 安那(共立女子大学)、市川 航(日本大

学芸術学部)、中嶋 凜(共立女子大学)、LIAO HAO

TING(東洋美術学校)、黄宇瀟(日本大学芸術学

部大学院)、大泉 菜央(共立女子大学)



東日本ブロック

■子どもワークショップ

担当:高橋 翼、神瀬 泰二、石渡 文一
 開催日:2023年8月8日(火)、12日(土)
 場所:東京ミッドタウンデザインハブ
 参加者:約50名の子どもたちが参加。
 毎年夏の恒例行事となっている、ミッドタウンで開催される「キッズサマーワークショップ」内でJIDAからは恒例の「電車ワークショップ」の他、「木材とネジのキーホルダー制作」「プチプチでつくろ!小さな金魚座布団」と初めて3種類ものワークショップを行った。WEBでのチケットも情報がリリースされると同時に即完売と大好評で、当日はものづくりに興味のある多くの親子が集まり、大盛況となった。

■デザイナーズスキル研究会

■ファクタスデザイン工房見学

担当:登 豊茂男
 開催日:2023年10月27日(金)

場所:テクノFRONT森ヶ崎
 参加者:13名
 内容:17:30~18:30 有限会社ファクタスデザイン工房見学、18:30~20:30「クラウドファンディングの成功事例から学ぶデザイナーズスキルの拡張」 鉢呂 文秀氏が代表を務める有限会社ファクタスデザインの拠点であるテクノフロント森ヶ崎で開催した。内容はファクタスデザインの工房見学、その後、テクノフロントのセミナールームで鉢呂氏による「クラウドファンディングの成功事例から学ぶデザイナーズスキルの拡張」と題して話題提供、座談会を行った。マクアケ社のクラウドファンディングで自社ブランド「FACTRON」のコインケースで達成率「10000%」というとんでもない支持を応援者から受けた。そこにはどんな工夫があったのか?マクアケ社との連携はどうしたのか?商品の品質やデザインの工夫など、様々な視点から話題提供をいただき、座談会参加者からも質問が多くでていた。D to C(デジタル環境を利用したコンシューマーマーケッ

ト)ビジネスは、デザイナーが最も得意とする「使い勝手」「品質」「ブランディング」の要素をフルに活用し、外部組織(マクアケなど)と連携したデザイナー個人でも取り組み、独自のマーケットまで開拓できるスキルを学ぶことが出来た。

■茨城県行方市“なめがた秋祭り”

担当:吉田 晃永、蓮見 孝
 開催日:2023年11月18日(土)、19日(日)
 場所:茨城県行方市
 東日本ブロックの大きな課題として地方活性化がある。茨城県行方市は国から過疎地域に指定されており、デザインの力を通して、2年程前からワークショップやキャンプなど様々な取り組みを市で行っている。この「なめがた秋祭り」にはJIDAブースとして出展。デザインビジネス研究会のTASK事業の成果商品の体験、筆技などを体験できるブースを作り大盛況となった。

デザインビジネス研究会

■TASK事業2023

担当:小林 浩一
 支援企業:5社
 アドバイス担当デザイナー:6名
 事業者/担当デザイナー:
 ・株式会社NINA / 井上 和世
 ・NOA / 忠嶋 肇 坂野 博行
 ・株式会社節句田 / 武者 廣平 中鉢 耕平
 ・熊野前鋼材 / 井上 和世 北村 洋一
 ・広沢プラスチック / 三津井 宏

【成果物:2022~2023】

・アニマルマスク(ファンシー製品)、端トング(トンダのお箸)
 ・消臭機能付きライト
 ・お一人様鉄板コンロ
 ・タブレットペン(ファンシー製品)
 ・hana cup(植栽ボール状吸湿土/パッケージ提案)
 ●株式会社 NINA
 担当:井上 和世
 販路開拓、部品仕入れ先の確保としてギフトショー見学を進め、同行した。
 ECサイト向け写真撮影、マルシェ向け表示方法の仕方支援。

●ベビリーック専門店 noa

担当:忠嶋 肇、坂野 博行
 底部構造:部材の構成、形状によって変形を緩和できないか、検討するための簡易試作を進める。
 手揚げ部品:特長としてスタイリングに活かしながらもポケット機能と合わせて合理的な構成を試作検討する。
 ・樹脂部品のカラーリング:部品を購入し、バランスを検討
 ●株式会社節句田
 担当:武者 廣平、中鉢 耕平
 花活布という商品名が何を指すのかがわかりにくいので修正を行った。
 (カップという響きがパッケージのプラスチックカップを指すように誤解を招くため。)
 ヤシ殻や布の仕入れ先からのストーリーがあると良い。捨てることを主張しすぎているので見直しを行った。
 ●株式会社熊乃前鋼材
 強み、弱みを把握し方向性を見出すためにSWOT分析を行った。試作品に対しての形状アドバイスをを行った。

■NEW YEARS PARTY 賀詞交歓会

担当:高橋 翼
 開催日:2024年1月25日(木)

場所:AXISギャラリー
 参加者:90名
 4年振りとなる賀詞交歓会をAXISギャラリーで開催。ファッションデザイナーの落合宏理氏の特別講演を行った。落合氏は自身のブランドであるFACETASMの他、話題のファミリーマートが展開するブランド「コンビニエンスウェア」にクリエイティブディレクターとして立ち上げ当初から関わっており、その開発秘話やブランドに込めた熱い思いなど会場では聞けない話に多くの来場者が感銘を受けていた。その後は鏡開きや懇親会など新年を彩るにふさわしい華やかなものとなった。久しぶりの熱気のある空間には多くの笑顔が見られた。参加者は予想を上回る90名が参加。JIDA全体のイベントの中でも最も集客力のあるイベントとなった。

■東日本ブロックニュース

担当:浅香 秋也
 JIDA会員との接点をもつメールマガジン。毎月1日に会員にメールが届くもので、毎月、東日本ブロックの活動紹介や新会員の紹介、会員によるリレー形式のコラム、お勧めの展示会情報など盛り沢山の内容となっている。これまでは東日本ブロックの会員への配信だったが、2024年4月号から全会員に向けた配信を行うこととなった。



子どもワークショップ



デザイナーズスキル研究会



なめがた秋祭り



TASK事業



NEW YEARS PARTY 賀詞交歓会

中部ブロック

中部ブロック長
水野 健一



2023年度はコロナ収束宣言と同時のスタートとなった。自粛ムード漂う長い暗闇も、変革という大きな副産物を産み落としていった。筆頭としてはリモートの一般化、そして働き方の自由化だろう。コロナの脅威に立ち向かう術が、ワークスタイルとライフスタイルを大きく変える起因となったのは間違いない。「変革と共に歩み生きる」。バブル経済崩壊からリーマンショックを経て、私達は再び、新たな世界に順応していくのだろう。

2023年度の活動は、リアルイベント回帰による会員同士の交流と、一般の方々に工業製品のデザインに携わる者が、身近に存在することを知らしめることに重点を置いた。ブロック総会では骨子に「中部から世界へ」と大風呂敷を掲げ、全国組織の会員であることの誇りと価値について再確認を図った。

■特別企画セミナー「廃棄される畳や、い草を3Dプリントで家具に再生」
開催日：2023年6月24日（土）
場所：なごのキャンパス
参加者：25名

有志のプロダクトデザイナーによるデザインラボ「HONOKA」は、ミラノサローネ、サローネサテリテで600組のデザイナーの中から選出され最優秀賞に選ばれた。彼らを突き動かすデザインへの熱意と、それによって導かれた歩みについて語ってもらった。

■デザイン講談 in 夢科
開催日：2023年9月2日（土）
場所：夢科
参加者：7名
夢科別荘を利用した、中部会員によるデザイン講談であり、自由に話しながら寝食を共にし、コミュニケーションを深める通年イベントの復活。

■JIDA Student Selection
開催日：2023年9月4日（月）
場所：Fab Café Nagoya
参加者：20名
就活に挑む大学3年生を対象にしたもので、各教育機関で行われている前期課題で優秀な取り組みを行なった学生を推薦し、JIDA Student Selection

（賞状）が授与され、ポートフォリオにバッチ掲載が許可される。また推薦された学生はプレゼンテーション&講評会に参加、その中より更に優秀賞をセレクトするイベント。

■“製品とデザインの共創を語り、迫る” “世界に羽ばたいたオリジナル製品戦略”
開催日：2023年9月29日（金）
場所：名古屋造形大学 名城公園キャンパス
参加者：10名
自由な素材や製法、そしてデザインを取り入れ、世界中から高い評価を得ているタカタレムノスとセラミック・ジャパン、そして福定良佑氏が共に生み出した、瀬戸焼製のデザイン時計 [RELIFE] の開発からデザインプロセスについて振り返り語り合う対談セミナー。

■日本を変える！地方発のデザイン活用術（中部、北陸、関西ブロック合同イベント）
開催日：2023年11月10日（金）
場所：株式会社GK京都 3階交流スペース
登壇者：中村貴男氏（株式会社ナカムラ・代表取締役）、

梶川貴子氏（株式会社フジタ・代表取締役）、北山寛樹氏（株式会社電子技販・代表取締役）
参加者：31名
地方企業の再生にデザインを導入し、成果を上げた3名の経営者から、地域を支える経営者やデザイナーに何ができるのか、その可能性を探った。

■Beyondサロン「あなたが独断と偏見で選んだ俺たちの推しデザインを語り合う会」
開催日：2023年12月28日（土）
場所：国際デザインセンタービル7階ラボ2
参加者：5名
今年発表されたデザインの中で、参加者が「これ良いいっ!」として推したいものをプレゼンテーションして自由に語り合う集い。



■デザイン講談&新年会
開催日：2024年1月20日（土）
場所：魚屋の台所 下の一色ニシキ店
登壇者：Zo Design Associates江藤 太郎氏
参加者：10名

■「材料とデザインのイノベーション」
“太陽の光だけで温まる透明なダウンジャケット”
“SOLAMENT® DOWN-LESS DOWN JACKET”
開催日：2024年3月1日（金）
場所：中心市街地拠点施設 アンフォーレ 1F多目的室
参加者：7名
住友金属鉱山が推進する新規事業における共創のプラットフォームであるX-MINING®（クロスマイニング）におけるデザインの重要性と役割に焦点を当て、材料業界における共創とイノベーションの枠組みにおいて、デザインが果たす役割を探求した。

■トークセッション&試乗会 in 名古屋芸術大学
開催日：2024年3月23日（土）
場所：名古屋芸術大学・西キャンパス
参加者：9名

ベビーカー「CURIO」、自転車「UTILITE」、電動カート「SCOO」など、ユニークな乗り物の製品開発を行なっている株式会社キュリオと、JIDA後藤氏によるトークセッション&試乗会。

■卒業制作訪問 JIDA中部賞 キャラバン
・2024年1月20日（土）名古屋学芸大学
・2024年2月14日（水）名古屋造形大学
・2024年2月16日（金）静岡文化芸術大学
・2024年2月17日（土）名古屋芸術大学
・2024年2月20日（火）名古屋デザイナー学院
・2024年2月23日（金）名古屋市立大学
・2024年2月25日（日）大同大学
参加者：都度4〜7名
中部エリアの美大芸大専門学校の卒業制作展を巡り、JIDA中部賞を授与する事業。30年以上続く恒例行事となっている。

■受託事業：設計者向けプロダクトデザイン講義
開催日：2024年3月8日〜15日の期間中の6日間
講師：渡辺 俊生
独立行政法人中部職業能力開発促進センター（ポリテクセンター中部）より受託。設計者向け講習の受講者に「プロダクトデザイン」について講義を行う。



廃棄される畳や、い草を3Dプリントで家具に再生



JIDA Student Selection



材料とデザインのイノベーション



卒業制作訪問 JIDA中部賞 キャラバン



“製品とデザインの共創を語り、迫る” “世界に羽ばたいたオリジナル製品戦略”



日本を変える！地方発のデザイン活用術



トークセッション&試乗会 in 名古屋芸術大学



設計者向けプロダクトデザイン講義

北陸ブロック

長く続いたコロナ禍に終息宣言が出された2023年度は、北陸ブロックでも初の取り組みとなる中部、北陸、関西ブロック合同でのトークイベントを開催した。

地方から全国へと進展を続ける3社の経営者をお呼びし、経営やもの作りへどのようにデザインを取り入れて活かしているのか、話を聞いた。

このような合同でのイベントの開催は、普段なかなか交流の起きにくいJIDAの他ブロックメンバーとの交流促進のためにも、今後も続けていきたい。

他には福井工業大学・金沢美術工芸大学・富山大学と、北陸三県にある各大学の卒業制作展を訪問し、学生も交えて意見交換を行った。

■日本を変える! 地方発のデザイン活用術 (中部、北陸、関西ブロック合同イベント)

開催日: 2023年11月10日 (金)

場所: 株式会社GK京都 三階交流スペース

参加者: 31名

司会: 稲垣 揚平氏 (エイジデザイン株式会社・北陸ブロック)

登壇者:

・中村 貴男氏 (株式会社ナカムラ・代表取締役)

・梶川 貴子氏 (株式会社フジタ・代表取締役)

・北山 寛樹氏 (株式会社電子技販・代表取締役)

デザイン経営を導入し、地方から全国へ発信し成果を出している3名の経営者呼んで、混迷する経済状況の中で、今まさに取り組むべきデザインの活用事例を語ってもらった。

■デザイン教育トレンド発信 卒業制作展見学会

【福井工業大学卒業制作展】

開催日: 2024年2月2日 (金) ~ 4日 (日)

場所: 福井市美術館 アートラボふくい2階

参加者: 約8名

【富山大学芸術文化学部卒業制展】

開催日: 2024年2月10日 (土) ~ 18日 (日)

場所: 高岡市美術館&高岡キャンパス

参加者: 約11名

【金沢美術工芸大学卒業制作展】

開催日: 2024年2月24日 (木) ~ 3月1日 (水)

場所: 金沢21世紀美術館 市民ギャラリーほか

参加者: 約5名

北陸三県を代表するデザイン教育を行う大学である福井工業大学、金沢美術工芸大学、富山大学芸術文化学部の卒業制作展示会の見学会を開催した。学生達も交えて意見交換を行い、交流を深めた。

名古屋 富山 大阪
 株式会社 ナカムラ 代表取締役 中村貴男
 株式会社 フジタ 代表取締役 梶川貴子
 株式会社 電子技販 代表取締役 北山寛樹
デザイン経営で起死回生した経営者と語る
日本を変える! 地方発のデザイン活用術
 JIDA 公益社団法人日本インダストリアルデザイン協会
 中部/北陸/関西ブロック合同特別セミナー
 ◆開催: **リアル** ハイブリッド開催 配信
2023 11月 / 10日
15:00~17:00
 ◆会場: **GK Kyoto**
 Design and Planning

日本を変える! 地方発のデザイン活用術



卒業制作作品 (富山大学)



卒業制作作品 (金沢美術工芸大学)

関西ブロック

関西ブロックでは学生コンペ、勉強会など、これまでの活動内容を踏襲しながらも、若いデザイナーが活躍できるようにJIDAの取り組みについてや次世代のニーズ、さらなる既存の会員の満足度をあげるための運営方法など、関西のものづくり企業とのつながりを深める活動や他方の組織団体等の知見も参考にしながら次年度以降の計画を念頭に入れて企画、活動、情報交換、次年度計画を行った。

■講演会「デザインとビジネス」プロフェッショナルデザイナーの皆様へ

開催日: 2023年6月24日 (土) 15:00 ~ 17:00

場所: ブライتنベル (心斎橋)

講師: イヴレス代表取締役 CEO 山川景子氏 (JIDA会員)

参加者: 講演会25名

ホテルに関わるプロダクトの提案やホテル事業の

運営に携わるイヴレス株式会社代表の山川氏により、これまでの事業内容や今の事業に至るまでのプロセスや変遷などを交え、さまざまな視点で事業に取り組み始めた経緯などを講演。

ビジネスの継続につながるための決断力についてデザイナーにとっても参考になる講演会になった。

■デザイナー向けビジネス英会話勉強会

開催日:

第1回1月19日 (金) ビジネス英会話 17:00 ~ 19:00

第2回1月26日 (金) プレゼン英会話 17:00 ~ 19:00

場所: 大阪デザインセンター セミナールーム

講師: ダニエル・ロドリゲス氏 (JIDA会員)

参加者: 4名

デザイナーの海外進出などで、外国人とのコミュニケーションは年々重要になっている。前年度に開催

した「デザイナー向けビジネス英会話勉強会」では、前回同様オリジナルテキスト配布により2つのテーマに分け、「ビジネスシーンで想定される英会話のフレーズを知る」をテーマに開催した。

■JIDA学生コンペ 表彰式&教育フォーラム

テーマ: 「快適なホテルライフを提供するプロダクト」

協賛企業: イヴレス株式会社

エントリー期間: 2023年10月~12月

作品提出締め切日: 2024年1月31日

応募点数: 59点

審査結果: 最優秀賞1点・優秀賞2点・イヴレス賞1点・JIDA賞2点

<教育フォーラム>

場所: 創造社デザイン専門学校 カンファレンスルーム

参加者: 20名



講演会「デザインとビジネス」



イヴレス（山川氏）講演 & 佐藤敏明理事のデザインセミナーを開催。

第9回目となるJIDA関西ブロック学生デザイン賞2023年は、イヴレス株式会社様の協賛で「快適なホテルライフを提供するプロダクト」をテーマに募集を始め、計59作品の応募があった。2024年2月に一次審査を行い、一次審査を通過した6作品の中から最終審査を行った。最終審査会は3月16日の教育フォーラムと合わせて行い、同時に表彰式と記念講演会を行った。

■知財セミナー懇談会 生成AIの周辺

開催日：2023年3月27日（水）17:00～19:00

場所：大阪デザインセンター セミナールーム

参加者：20名

昨今話題の生成AIについて、弁理士側から見る近況と知財、デザイナーから見る使い方や状況について双方から将来像や問題点などさまざまな可能性を探るべく意見交換会を行った。

■京都市立芸術大学新キャンパスと作品展見学会

開催日：2023年2月10日（土）14:00～17:00

場所：京都市立芸術大学 新キャンパス

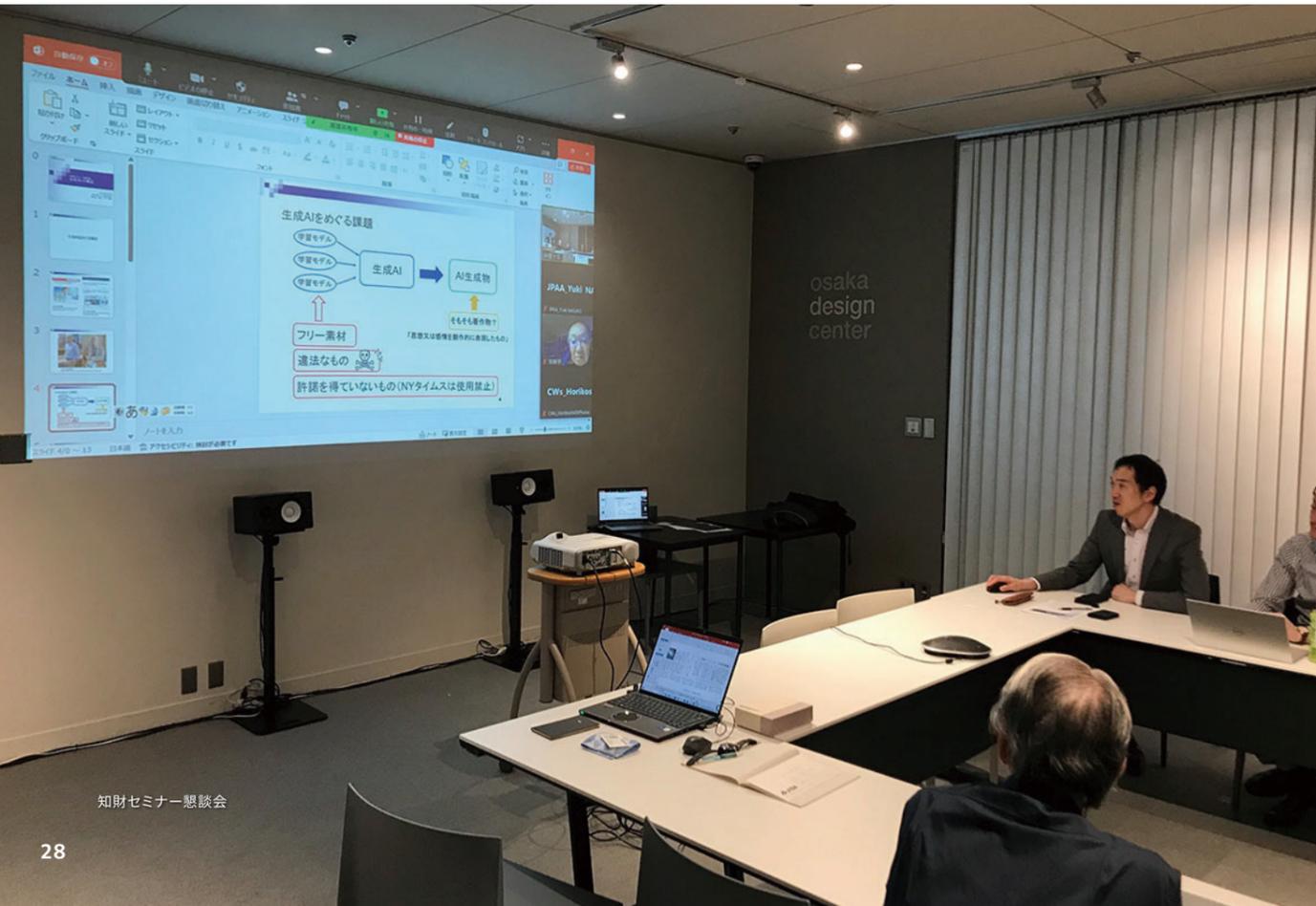
参加者：10名

2023年10月に京都駅前に移転した京都市立芸術大学の新キャンパス見学会をメインに作品展の見学会を開催。大学全体の建築説明に関西ブロック運営委員であり同大学教員の藤本氏が案内し、プロダクト専攻学生たちの作品は同大学高井教員が案内した。

学生の即興プレゼンテーションも行い、同大学教育の近況や方針などにも身近に触れることができた。



JIDA学生コンベ



知財セミナー懇談会



西日本ブロックブロック長
彌中敏和

西日本ブロック

運営委員会の拡張開始

定期的に行っているブロック運営委員会を拡張して、小規模ながらも意義あるイベントとし発信してゆくことは2024年度のブロック取り組み目標であるが、2023年度においても可能な限り前倒しで実績を作ろうと務めた。

9月の運営委員会では、名古屋の自動車イベント「Coppa Centro Giappone（※）」の主催者と同イベントに出展予定のマツダ株式会社の広報担当の方をゲストに迎えて「自動車製造国から自動車文化立国へ」をテーマに熱い議論を交わすことができた。

次年度は計画的に複数回の開催を目指し、テーマの多様性や高品質な発信内容の構築に努めたい。



※共に自動車産業が盛んな名古屋市とイタリアトリノ市の姉妹都市関係をきっかけにして2022年に始まったイベント。イタリアンクラシックカーのみならず、内外の珍しい自動車が出展多数展示されるほか、実走イベントなども行われる。



Coppa Centro Giappone

広報



今季から担当理事と委員長の変更、人員の増加など、新しい体制での広報委員会がスタートした。前年度までのアニュアルレポートの発行や、イベントでの記録保存、SNS等による情報発信、ダイヤモンドオンライン社とのコラボ記事など引き続き広報に関わる活動を行った。イベントに関しては、コロナ禍でのリアルとオンライン併用のハイブリッド方式から、リアル参加に主流が戻ってきたため、配信を行う機会は減ったものの、アーカイブのための記録保存は引き続き行っており、今期も貴重な情報が蓄積されている。また、賀詞交換会の際は、Metaを用いてターゲットを絞った広告を出すなど、今後のイベント発信の方法について検討材料にもなった。積極的な外部発信のための活動については、VIマニュアルの改訂やHPデザインの改修についての議論が活発になされ、今後JIDAが社会的にどうあるべきか、関わってくれる人をどう増やしていくかなどを広報委員会として考えていく基盤となったので、次年度の活動で引き続き模索し、形にしていく。

広報委員会

委員長：登 豊茂男
今年度は、コロナ禍明けということもあり、情報委員会のイベント配信の作業などが軽減され、委員の増員も行い活発な委員会活動が行われた。特に委員会内のコミュニティツールの検討、VIフォントの再構築、各デザインイベントに出向き情報アーカイブの収集、HPのCMS変更・レイアウト変更などの検討が行われた。また、10月27日～29日の3日間にWDO世界デザイン会議が開催され、委員3名が

イベント取材を行った。
■出版部会
部会長：芝 操枝
2022年度版アニュアルレポートを8月に900部印刷完了し配布した。70周年関連の内容もあり、例年より4ページ増され40ページの構成となった。パンフレットの一部リニューアルを構想。英語版・日本語版を2024年度に印刷予定。

■情報部会
部会長：塩田 英人
本年はWDOの世界デザイン会議があり写真撮影を実施した。
その他にもイベント動画の収録・配信などを行った。CHINAPLUS/講演動画制作、伊藤邦久氏/手描きアイデア・スケッチによるデザインワークショップ、井上 真人氏/欧州デザインNOW2024、23年度IED夏季研修報告、落合宏理氏/2024賀詞交換会などの撮影をした。
また2024賀詞交換会、中部ブロック特別企画セミナーでSNSの広告を行った。

今年度は、以前より懸案だったサーバーの移転を行った。常時SSL化を行い、広報委員会とミュージアム委員会で話し合いを重ねデザインミュージアムの新しいサイトを作成した。その他にも、エコデザイン研究会、ADA等のサイトも新しいサーバーに移した。
さらに500人からの会員全員に配っているJIDAメールアドレスのサーバーも新しいメールサーバー

に変更した。同時にメーリングリストの変更なども行った。
またJIDAのデザイナーズショップでは、検定問題集等のダウンロード販売を開始したが、好調に推移している。
またPD検定ページを設定、サイト各所追加・修正。さらに新サイトへと移行した。

■ギャラリー部会
部会長：登 豊茂男
・JIDAギャラリー出入口上部のサインの計画を行った。各委員からさまざまな提案がありサイン案を検討した。
・JIDA70周年記念、ダイヤモンドオンライン社とのコラボ企画「デザイン経営の輪郭」連載シリーズ第1弾「拡張するデザイン」を昨年引き続き会員（石川氏、登氏、川田氏）の寄稿をダイヤモンドオンラインに掲載した。また、第2弾「デザインでCXはこう変わる」の連載がスタートし、会員（佐藤氏）の寄稿を掲載した。

・下記のイベントがJIDAギャラリーで開催された。
10月20日～29日 DESIGNART TOKYO 2023 「未知」を組む組子 鈴木舞氏
2月15日～20日 倉方ゼミ最終回展・和光大学倉方雅之教授退任記念展 和光大学
2月22日～27日 武蔵野美術大学「卒業制作選抜展」 武蔵野美術大学



賀詞交換会風景



デザインでCXはこう変わる



JIDA Designers Shop



DESIGNART TOKYO 2023「未知」を組む組子



内務

総務委員会

当年度は前年度に検討した組織体制等につき運用を開始した。規程類整備については、まだ未完了のままとなっているため、次年度は規程類整備を主に活動を実施する予定である。

1. 理事体制を中心とした組織体制の刷新

事業の多さから、理事会においても委員会活動が書面報告のみになってしまうケースも間々散見され、これにより情報伝達が的確に行われない状態にあった。そこで、事業の相互親和性や類似性などを考慮した上で、事業の情報を束ねる連絡会（センター連絡会・クロス連絡会）を設置し、その長として各副理事長を置いた。さらに、理事会における業務執行理事報告にて、各副理事長より連絡会にて得た各事業・委員会の進捗情報について報告いただく体制とした。当初はやや戸惑いもあったが、1年かけ実施した結果、現在は定着した状態にある。

2. 役員研修会の実施

公益法人協会に依頼し、新役員に対し公益法人にまつわる法規に関する研修会を実施した。以後、これを基本とする予定である。

3. 資料・情報共有プラットフォームの順次移行

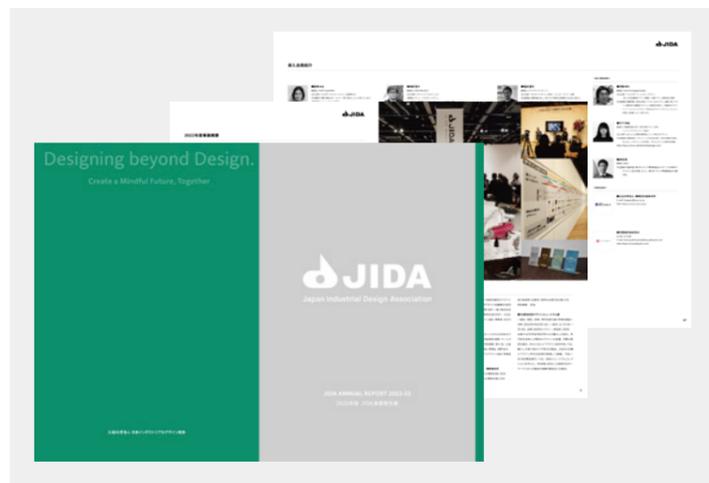
前年度、体制構築したGoogleドライブを順次稼働させ始めた。また、全委員会に拡充は出来ていないが、なるべく早めに現在あるJIDAサーバーをGoogleドライブへ移行する予定である。

4. 一部ウェブサイトに関するStudio移行の実施

管理・変更の容易性から各委員会において展開しているウェブサイトについてノーコードウェブサイト作成サービス「Studio」に切り替えを実施している。現在はJIDAデザインミュージアムサイト、JIDAデザイン検定サイトが切り替え完了に至っている。今後はJIDA本体サイトとの連動・合体も視野に入れて検討する予定である。

財務委員会

今季は協会設立70周年記念事業を終えた翌年として、次の80周年記念事業に向けた特別資金積立のため、特定費用準備資金等取扱規程を理事会に提案し、決議された。2023年度決算については、コロナ感染症も収まり、リアルな活動が増えはじめ、会議費や旅費交通費などの活動費が増加しているが、収益も費用もほぼ予算通りの執行結果となった。前年度と比較すると、事業規模が小さくなっているが、前年度は70周年記念事業という大きなイベントがあった特別な年度であり、本年度は通常の規模に戻ったと言える。ただし、1点だけ書籍頒布が計画に届かず増刷費用が大きく上回ったが、昨年度から繰り越された余剰金も解消し、総合的には収支償償の3要素を満たすことができた。その他、10月から始まったインボイス制度に伴い、各委員会・ブロックなどの活動に伴う経費精算・立替がスムーズに行われるようにガイドラインを作成し、案内した。



2022年度版アニュアルレポート



手描きアイデア・スケッチによるデザインワークショップ

新入会員紹介

正会員 (個人)

■男鹿 健
 勤務先: スタジオオト
 主な分野: プロダクトデザイン (ソファ、チェスト等の家具、雑貨類)
 Web: <https://www.studio-ot.jp/>
 これまでに関わりない皆様との意見交換やコラボレーションなどが出来ればと思います。自身の状況に応じて、参加させて頂ければと思っています。

■魚住 英司
 勤務先: フリーランス
 主な分野: 事業レイヤーからのクリエイティブディレクション、建築・プロダクトデザイン
 Web: <https://www.paretoinc.net/>
 フリーランスとしてより活動の幅を広げていくにあたり皆様とデザイン活動の情報交換や交流を行い、広がっていくデザイン領域の可能性について考えていきたいです。委員会やイベント、今後のデザインの情報発信活動へ参加したいと考えています。

■藤本 泰介
 勤務先: ALLOVERNESS design
 主な分野: アパレルデザイン
 会員との情報交流、交換を通じて新たな事業、企画、または双方の発展のため入会しました。様々な会員活動、交流に参加できたらと考えています。

■白井 昇平
 勤務先: HaKU Design Studio / 株式会社日立製作所
 主な分野: プロダクトデザイン全般
 Web: <https://haku-design.com/>
 プロダクトデザイン・工業デザインに関する情報交換や交流を通じて、新しい視座の獲得や人脈を広げることで、個人としてデザインに関わる機会を増やしたいと考えています。

■青木 友希
 勤務先: 千葉工業大学
 主な分野: UXデザイン
 Web: <https://www.it-chiba.ac.jp/>
 前職のニコソで「JIDA DESIGN MUSEUM SELECTION」を受賞し、JIDAに興味をもっていました。デザイン業界の活動としても非常に価値のある活動をされている団体なので、是非活動に参加したいと思い入会しました。体験活動事業での活動を希望します。

■青木 護
 勤務先: MA Design SN DEDIGN PLATFORM
 主な分野: カーデザイン
 会員との交流の場を作るため入会しました。機会を見てイベントへの参加を考えていきたいと思っています。

■蒲生 孝志
 勤務先: ガモウプロダクトデザインスタジオ
 主な分野: プロダクトデザイン
 Web: <https://gpds.jp/>
 ODC (大阪デザインセンター) からの紹介で入会しました。セミナー参加やデザイナー同士の交流などでJIDAでの活動を通して知見を広げていきたい。

■古屋 秀男
 勤務先: H-F Lab (屋号)
 主な分野: 音響製品のハードウェア&ソフトウェアのデザイン
 会員の皆さまとの情報交換や交流を通じて、アイデアの創出ができればと考えています。調査・研究活動に参加させて頂ければと思っています。

■八木 マリ南
 勤務先: ヤギデザイン株式会社
 主な分野: 化粧品のパッケージデザイン等
 Web: <https://yagidesign.tokyo>
 デザインの素晴らしさや楽しさを体験し、デザインを将来自分のブランディングに活かせるよう考えています。会員との連携と情報交換して今後に役立てていきたいと思っています。委員会に参加をして、視野を広く持ちたいと考えています。

■川和 聡
 勤務先: 公立大学法人 長岡造形大学
 主な分野: トランスポートデザイン・モビリティデザイン
 Web: <https://www.nagaoka-id.ac.jp/>
 これまで企業に所属して法人会員として活動に参加させて頂いておりましたが、4月より大学教員となり、個人会員として様々な活動に参加したいと思っています。

■橋田 規子
 勤務先: 芝浦工業大学デザイン工学科
 主な分野: プロダクトデザイン全般 (生活用品、家具、設備、元TOTOで水廻り設備も得意)
 Web: <https://hashidalab.com/o>
 会員の方よりお問い合わせいただきました。みなさんと情報交換できることを期待しています。

■稲坂 義
 勤務先: 千葉工業大学 創造工学部デザイン科学科
 主な分野: 空間デザイン、データビジュアライゼーション
 Web: <https://inalab.info/>
 主な活動として、次世代人材の育成のための体験活動事業、特に学生デザインワークショップや子どもワークショップなど、調査・研究及びその普及に関する事業として、ツール開発や人材育成とデザイン領域の拡大と深化に関わる両面に関わりたと思っています。

■長尾 徹
 勤務先: 千葉工業大学 創造工学部デザイン科学科
 主な分野: 家具、医療工具等のプロダクトデザイン
 Web: <https://www.bd-assoc.com>
 活動自体に興味があり、JIDAでまとめられた「インダストリアルデザイン」の執筆も担当していました。また、ノンデザイナー向けの啓蒙活動としてブランディングデザイン協会を主催しています。デザイン教育を行って30年になる経験を活かせる活動を希望します。

■引原 洋二郎
 勤務先: Jiyuu 自由
 主な分野: 家具や家電、水回り住宅設備や日用品などインテリアにまつわるプロダクト
 参考Webサイト: <https://color-and-wonder.stores.jp/> (家具ブランド)
 インダストリアルデザイナーという職種同士での繋がりを深め、ともに高めあえたらと思っています。また業界外の方にも理解度を深め、デザインの素晴らしさを伝えていきたいと思っています。どうぞよろしくお願いいたします。

■宮崎 愛弓
 勤務先: 目白大学
 主な分野: フィールドサーベイ、インターンシップ
 Web: <https://www.mejiro.ac.jp/>
 会員同士の交流・意見交換などを通じ、新たな視点を取り入れることで、本業とする教育・研究活動等の専門分野に対する知見等の獲得ができればと考えています。セミナーやワークショップ等の活動に参加し、地域活性化に携わりたいと思っています。

■ハイパーデザイナー やまざき たかゆき
 勤務先: pdc_designworks
 主な分野: 2輪、4輪デザイン、ガジェットデザイン
 Web: <http://www.yamazakitakayuki.com/>
 自分の可能性をさらに広げるべく、入会いたしました。常にユーザー目線の確かなアウトプットを目指しています。皆さんとの交流により、自身の見聞やデザインに対する考え方が広がることを期待しています。

賛助会員 (個人)

■立花 啓道
 勤務先: 株式会社竹内製作所
 主な分野: プロダクトデザイン (建設機械)
 Web: <https://www.takeuchi-mfg.co.jp>
 JIDAの情報を活用し、今後の業務に役立てて行きたいと思っています。

■鈴木 舞
 勤務先: MAISUZUKI
 主な分野: 「粋」について探求するアーティスト・プロジェクトディレクション
 Web: <https://www.nama-iki.com/>
 日本古来の「粋」について探究しており、他デザイナーとの交流を通して、日本の文化や精神の宿るものづくりやプロジェクトについて探究を深めたい。

■須藤 慎
 主な分野: 中小企業デザイン活用支援
 WebサイトHP: <https://management-d.com/>
 中小企業デザイン活用支援を主な事業内容としているため、プロダクトデザイナーの方々の協業・連携を模索できれば考え入会しました。プロフェッション委員会活動に参加し、経営コンサルタントとしての視点から会の活動活性化に貢献できればと考えています。

■佐々木 真也
 勤務先: 株式会社竹内製作所
 主な分野: 建設機械内外装デザイン、自社製品全般
 Web: <https://www.takeuchi-mfg.co.jp>
 デザインの動向、新素材や加工方法の情報収集のため入会しました。

■オウ セイリン
 勤務先: Magic5w 合同会社
 主な分野: 製品設計、文房具デザイン、海外デザイン製品の検索と紹介
 もともとプロダクトデザインに興味があり、日本のプロダクトデザインは最先端だと思うので、プロダクトデザインの分野をもっと詳しく学びたいと思っています。デザイナーとももっとコミュニケーションをとっていきたいです。よろしくお願いいたします。

■吉田 薫
 ‘インダストリアルデザイン’の専門誌など首都圏外では紙媒体がないなかで、御法人からの行催事等のニュース告知及び報告を見て、知識獲得や聴講も視野に入れることが可能となり、季刊・離月刊でなく、ホットな旬の電子情報が入手できるのは有難いと思っています。

正会員 (団体)

■エレコム株式会社
 担当者: 佐藤 慶太
 E-mail: keita_sato@elecom.co.jp
 Web: <https://www.elecom.co.jp/>

■&Y CONCEPT
 担当者: 吉田 明彦
 E-mail: yoshida@and-y-concept.com
 Web: <https://and-y-concept.com/>

■キワ・アート・アンド・デザイン株式会社
 担当者: 平賀 俊孝
 E-mail: hiraga@kaad.jp
 Web: <https://kaad.jp/>

■株式会社フォルム
 担当者: 若林 美穂
 E-mail: info@form.co.jp
 Web: <https://form.co.jp/>

賛助会員 (団体)

■ダイナコムウェア株式会社
 担当者: 三島 竜輔
 E-mail: rmishima@dynacw.co.jp
 Web: <https://www.dynacw.co.jp/>

■JUKI株式会社
 担当者: 山本 成美
 E-mail: shigemiyamamoto@juki.com
 Web: <https://www.juki.co.jp/>

■日本製鉄株式会社
 担当者: 浜崎 由基
 E-mail: hamasaki.9hk.yoshiki@jp.nipponsteel.com
 Web: <https://www.nipponsteel.com/>

2024年8月1日発行

発行人：公益社団法人日本インダストリアルデザイン協会

理事長：太刀川 英輔

編集：広報担当理事 田崎 咲絵、広報委員会出版部会 部会長 芝 操枝

エディトリアルデザイン：株式会社モノグラフアーツ

広報委員会・JIDA事務局

〒106-0032 東京都港区六本木5-17-1 AXISビル 4F

TEL：03-3587-6391 FAX：03-3587-6393

jidasec@jida.or.jp